



## はじめに

---

2023年、新型コロナパンデミックはだいぶ落ちつきましたが、世界は新しい困難に直面しています。地球温暖化は「地球沸騰化」と称され、各地で洪水や早魃、山火事が起き、気候難民も増加しています。また、ロシアによるウクライナ侵攻、パレスチナ自治区ガザ地区での軍事衝突と戦乱が続き、世界は分断されつつあります。エネルギー危機、物流の混乱から物価が上昇、パーム油価格も高止まりしており、日本企業は原材料の高騰に頭を悩ませています。

久々の現地開催となった持続可能なパーム油に関する年次円卓会議(RT2023)は、来年に20周年を迎えるRSPOの「次の20年」がメインテーマでした。RSPOに加盟する日本企業は300社を超え国別ランキングでは4位ですが、認証油への切り替えは緩慢といえます。加盟企業の積極的な活動を促すJaSPONのイベントをレポートしています。

加盟企業は認証油への取り組みを年次報告書(ACOPレポート)として提出しますが、今回の白書ではパーム油加工流通業大手5社のレポートを分析。パーム油などの使用量、認証油導入率、認証油が世界のどの地域で使われているかなどを調べました。

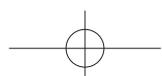
RSPOにはWWFや動物園など環境保全団体も加盟しています。パーム油を直接扱わない団体が認証油を広めるために行っている活動を報告書から読み取りました。

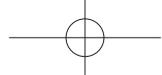
さらに、数年前にブームとなったパーム油発電の現在を追っています。

生物多様性保全は、地球上に暮らす人間全員が関わっていかなくては解決できない問題です。この白書が、持続可能なパーム油への理解の一助となれば幸いです。

パーム油白書編集委員会(青木崇史、中西宜夫、森井真理子)

---





# Part 1

# 知識編

## CONTENTS - 1

RT2023報告

**RSPOは来年創立20周年、  
「次の20年」に向けての構想が議論されました**  
P 4 ~ P 5

JaSPON報告

**RSPOとの共催で、認証パーム油への  
理解を深めるフォーラムを東京で開催**  
P 6 ~ P 7

日本のRSPO加盟企業リスト

**日本企業のRSPO正会員は141社、準会員が163社、  
合計300社を越えました**  
P 8 ~ P 9

ACOPLレポート①

**日本の大手加工流通業5社は認証油を82万トン扱うも、  
国内流通量は少量です**

不二製油、日清オイリオ、三井物産、伊藤忠商事、三菱商事

P 10 ~ P 13

ACOPLレポート②

**WWFや動物園、生産国の環境保全団体などが  
さまざまな活動を展開中**

P 14 ~ P 15

バイオマス発電

**バイオマス発電の燃料としてのパーム油やPKSは、  
さまざまな問題があります**

P 16

# RSPOは来年創立20周年、「次の20年」に向けての構想が議論されました

2023年のRSPOの年次総会はインドネシアのジャカルタで開催されました。

久しぶりに多数の参加者が会場に実際に集まりにぎわっていました。「次の20年を形作る」がメインテーマでした。

中西宣夫 (サラヤ調査員 BCTJ 理事)

## RT2023はジャカルタで開催

RT2023は、インドネシアのジャカルタで2023年11月20日から22日にかけて開催されました。

RSPOは2004年の創立時は加盟団体は少数でしたが、現在は5,780団体と大きく増えています。日本企業は約300社で、加盟数では米国、ドイツ、イギリスに次ぐ第4位の加盟国となっています。

今回のRT2023では、コーシー、POLA、日清オイリオ、J-オイルミルズ、サラヤなどが参加しました。

オープニングは、従来通り1年間でRSPO認証を取得した小規模農家を表彰する儀式からスタートしました。この表彰では、全体で36の団体が顕彰され、その中で30組がインドネシアから、残りがマレーシア、ガーナ、コロンビア、タイからのグループでした。

## RT2023のテーマは「次の20年に向けてのパートナー」

テーマ"Partners for the Next 20" (次の20年に向けてのパートナー) は、来年設立20周年を迎えるRSPOの今後を考える課題といえるでしょう。

基調講演はシンガポール国立大学副学長、自然を活用した解決策 (Nature-based Solutions : NbS) センター所長であるコー・リアン・ピン (Koh Lian Pin) 教授がおこなわれました。

NbSとは「社会課題に順応性高く効果的に対処し、人間の幸福と生物多様性に恩恵をもたらす、自然あるいは改変された生態系の保護、管理、再生のための行動」と定義されており、国連気候変動枠組条約と生物多様性条約でも定着しつつある概念です。

コー教授は気候変動問題への有効な取

り組みとしてNbSを解説し、森林開発を避けたり、植林を推進することはもとより、間作や再生農業なども自然を活用した解決策の事例として、その有効性を強調しました。

また、サイドイベントとして"Current Insights of Regenerative Agriculture in Oil Palm" (アブラヤシにおける再生農業の現状と課題) が開催されました。RSPO認証取得から次のステップを見据えた動きが始まっていることが感じられました。

## 全体会議1のテーマは「気候変動対策の拡大」

11月21日の全体会議では、「Scaling Climate Action (気候変動対策の拡大)」がテーマでした。

過去10年間でグリーンファイナンス、気候変動ファイナンス、気候変動に焦点を当てた金融メカニズムが、世界的・国

ジャカルタで開催されたRT23は、多くの参加者で賑わった。





## RT2023のプログラム

11月20日

ウェルカムレセプション

11月21日

RT2023 開会式

基調講演 コー・リアンピン教授

### 全体会議

Scaling Climate Action:  
Collaborating with Financial  
Institutions in the Palm Oil Value  
Chain  
気候変動対策の拡大：パーム油バ  
リューチェーンにおける金融機関  
との協働

### 分科会

Labour Unions as Vital Partners in  
the Next 20: Strategies to Prevent  
and Resolve Worker Grievances  
次の20年における重要なパート  
ナーとしての労働組合：労働者の  
不満を防止および解決するための  
戦略

Solutions versus Sanctions:  
Meeting the Evolving Demands of  
Social Assurance in the Next 20  
解決策と制裁：今後20年間で進化  
する社会的保証の要求に応える

Jurisdictional Certification:  
Catalysing the Future of Sustainable  
Palm Oil  
管轄区域認証：持続可能なパーム  
油の未来を促進

Living Wage in the Palm Oil  
Supply Chain: Achievable or mere  
Utopia?  
パーム油サプライチェーンにおけ  
る生活賃金：達成可能か、それと  
も単なるユートピアか？

The Future of Certification, Trade  
and Traceability in the Next 20  
次の20年における認証、取引、ト  
レーサビリティの未来

Shared Responsibility in Future  
Supply Chains: Increasing Uptake  
and Smallholder Inclusion  
将来のサプライチェーンにおける  
責任の共有：受け入れと小規模農  
家の参加の増加

11月22日

開会挨拶

### 全体会議

Shaping the Next 20: Synergising  
Policies and Strategies for  
Sustainable Palm Oil  
次の20の形成：持続可能なパーム  
油のための政策と戦略の相乗効果

### 分科会

Envisioning the Future of Palm Oil  
- What Role Does it Play in Food  
Security?  
パーム油の未来を思い描く - 食料  
安全保障においてパーム油はどの  
ような役割を果たすのか？

Future-proof Supply Chains:  
Unlocking the Role of  
Oleochemicals  
将来を見据えたサプライチェー  
ン：オレオケミカルの役割を解き  
放つ

Solutions for Worker Health and  
Safety in a Heating Climate  
温暖化環境における労働者の健康  
と安全のためのソリューション

Sustainability in the Eyes of the  
Global South  
グローバル・サウスから見たサス  
テナビリティ

Navigating the Corporate  
Sustainability Reporting Directive:  
The Future of Doing Business in  
Europe  
企業の持続可能性報告指令のナビ  
ゲート：欧州におけるビジネスの  
未来

2Aceh Sustainable Roadmap  
Launch with RSPO-ISPO  
Certification  
RSPO-ISPO認証による持続可能  
なロードマップについてアチェ州  
からの2つの発表

Bridging the Gap - Empowering  
Smallholders to Succeed  
Amidst Tightening International  
Regulations  
ギャップを埋める - 国際的規制強  
化の中で小農の成功に力を与える

閉会式

家的な気候変動目標に合致するようにさ  
まざまな利害関係者を動かしてきたこと  
が強調されました。

金融機関は、気候変動の影響を軽減す  
るためのセクターを横断する協力を進め  
る中で、触媒的な役割を果たしています。

このセッションでは、主要な金融機関  
が気候変動対策を推進するための戦略に  
焦点を当て、持続可能な資金調達メカ  
ニズムや気候変動デューデリジェンス報告、  
気候関連資産や排出削減戦略の保証、気  
候関連目標に対応する持続可能な事業開  
発に協力する取り組みを共有しました。

### 分科会のトピックはさまざま

午後1部の分科会では3つのトピック  
が設けられました。1Aでは、次の20年  
における労働組合の重要性と、労働者の  
不満を防止し解決する戦略に焦点が当て  
られました。

1Bでは、次の20年における社会的保  
証の進化する要求に応えるための解決策  
と制裁についての議論が行われました。

1Cでは、持続可能なパーム油に焦点  
を当て、RSPOの認証に対する管轄地域  
アプローチ (JA) が持続可能な未来を  
切り開くためにどのように役立つかにつ  
いての対話が行われました。マレーシア  
サバ州のJAの事例では、頻繁に政権が  
交代するためその推進にも影響が出てい  
ることが報告されました。

午後2部も3つの分科会がありました。  
その中のひとつは、パーム油サプライ  
チェーンにおける生活賃金の実現可能性  
に焦点が当てられ、次の20年における認  
証、貿易、トレーサビリティの未来につ  
いての議論が行われました。

また、未来のサプライチェーンにおけ  
る共同責任にも焦点が当てられ、持続可  
能なパーム油認証製品の普及を促進し、  
小規模農家を取り込み、完全に持続可能  
なサプライチェーンを実現するためのハ  
ードルや機会について話し合われました。

もう一つは、次の20年における認証、  
貿易、トレーサビリティの未来をテーマ  
に議論がなされました。

## 全体会議2 「次の20年を形作る」

22日の全体会議では、「Shaping the  
Next 20 (次の20年を形作る)」がテー  
マで、持続可能なパーム油セクターの將  
来を見据えた政策と戦略に焦点が当てら  
れました。

南半球の官民セクターの協力や、サブ  
ライチェーンのグリーン化における中国  
やインドなどの主要な輸入市場の政策展  
開のトレンドについても議論され、主要  
輸出市場の生産者が将来の戦略にどのよ  
うに取り組むかが共有されました。

コストの公平な分担を確保しつつ、官  
民両面で相乗的なアクションを起こすべ  
き分野も取り上げられました。

本会場では、21団体がバラエティ豊か  
なブース展示を行っていました。従来の  
テーマに加えて、再生農法、アグロフォ  
レストリー、ネイチャーベースドソリュ  
ーションといった新しいテーマが目立ち  
ました。

# RSPOとの共催で、認証パーム油への理解を深めるフォーラムを東京で開催

2023年10月12～13日の2日間に渡り開催されたフォーラムはのべ約240名の参加者がありRSPOに対する日本企業の関心の高さがうかがえました。

青木崇史 (JaSPON 理事 BCTJ 事務局長)

## JaSPONとRSPOの初の共催イベント

JaSPON (Japan Sustainable Palm Oil Network) は、日本でのRSPOの普及に務め、RSPO加盟する企業も順調に増えてきました。RSPO本部の日本市場への期待も大きく、日本企業との積極的なコミュニケーションを望んでいます。今回、RSPOに対するより一層の理解と認証油導入を目的とし、JaSPONとRSPOの共催でフォーラムが開催されました。

『JaSPON × RSPO Conference and Member Engagement Forum 2023』は、RSPOとJaSPONの共催により2023年10月12～13日の2日間に渡り東京都中央区のベルサール八重洲で開催されました。2日間で約240名の参加者がありRSPOに対する日本企業の関心の高さがうかがえました。

## 基調講演はRSPOのCEO

1日目は会場とオンライン配信のハイブリッド形式で行われ、日本のマーケッ

トにおける認証パーム油の動向について、RSPOのジョセフ・ディクルスCEOによるオンライン基調講演を含む4つの講演が行われました。

ディクルスCEOは「『持続可能なパーム油』はSDGsの実現に寄与し、また来年で創立20周年を迎えるRSPOはパーム油分野に積極的な変化をもたらした」「日本市場はRSPOの発展に大きく貢献しており、今後は国際的なサプライチェーンと小規模農家の支援における役割が求められる」と述べました。また「成長を遂げる日本市場とさらに良い関係を構築していくためにも、新しく導入された『Shared Responsibility (共有責任)』に付き合い、要件を果たして欲しい」と強調しました。



オンライン講演で日本企業によるRSPO発展への貢献に謝辞を述べるとともに一層の協力を呼びかけるジョセフ・ディクルスCEO

RSPOへの関心の高さを示すように会場は2日間とも満員となった

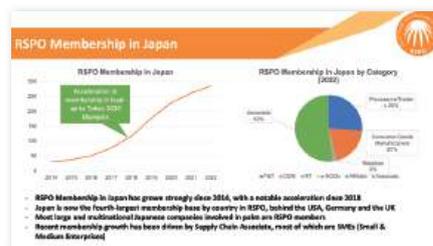


アシュウィン・セルバラジ氏、ムハマド・アブドラ氏、ハン・サン・イエン氏による講演が行われた。

## 日本における持続可能なパーム油の現状

続いてアシュウィン・セルバラジ氏、ムハマド・アブドラ氏、ハン・サン・イエン氏による講演『日本と持続可能なパーム油 - 進展と可能性 -』ではRSPOの組織や小規模農家支援プログラムについて、また日本市場の成長についての解説がありました。日本市場のCSPO<sup>※</sup>取引量は、2018年では30,000トンでしたが、2022年には258,000トンに急増しました。この期間の世界のRSPO取引量は300万トン増えており、日本はその8%を占めるということです。

さらに「持続可能性」への明るい展望について、新型コロナウイルスのパンデミックを契機に消費者はよりエコフレンドリーになり、2010年代に主流だった「健康志向」は2020年代には「持続可能志向」に取って代わられるだろうと語られました。



急増するRSPO加盟日本企業数を占めず折れ線グラフ(左)とカテゴリーを占めず円グラフ(右)

## 大阪万博の パーム油調達コード

午後ひとつめの講演では、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会より企画局持続可能性部長の永見靖氏が登壇しEXPO2025大阪・関西万博における「持続可能性に配慮した調達コード」を解説しました。

2010年代からオリンピック・パラリンピックや万博では大会のための建築材や食材は持続可能性に配慮した調達を実現することがスタンダードになっています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは調達品目が「木材・農産物・畜産物・水産物・木材・紙・パーム油」に整理され、パーム油も調達品目に加わりました。

EXPO2025はサステナブルかつインクルーシブな運営を目指し、『持続可能な調達ワーキンググループ』を設置してパーム油を含む個別課題の検討を続けています。飲食用揚げ油、洗剤や石鹼、加工食品の原材料として使用されるパーム油が調達基準の対象となり、認証済みかつ流通管理の徹底が確保されるもののみ調達が可能という、高い基準が求められることとなります。なお、ワーキンググループの議事録は「持続可能な調達ワーキンググループ」ウェブページ\*で確認できます。\*<https://www.expo2025.or.jp/overview/sustainability/group/>

## 日本企業による独立小農へのエンパワーメント

初日最後は『独立小規模パーム油農家-RSPO日本会員がおよぼすインパクト-』と題されたギンター・プラフォボ氏とラダ・ラプヌン氏による小規模農家サポート事業についての講演でした。

RSPOが現在熱心に取り組んでいるのが小規模農家の支援です。講演では花王株式会社がインドネシアの油脂製品製造・販売会社のアピカルグループおよび農園運営のアジアンアグリ社と共同で現地にSMILE (SMallholder Inclusion for better Livelihood & Empowerment) プログラムを展開し、農業知識や財政基

盤が不足しがちな小規模農家にRSPO認証の取得支援や生産効率向上の教育や道具の提供を行うことで持続可能なパーム油の生産性を上げ、小規模農家の環境改善に務めていることが紹介されました。

## 具体的な認証油導入のためのアドバイス

2日目はRSPO会員にとって具体的かつ実用性の高いプログラムとなりました。RSPO本部から認証や市場変革の担当者が登壇し、日本市場で関心の高いRSPOクレジットやサプライチェーン認証について、また2022年10月に改訂された『RSPOマーケットコミュニケーションと主張に関する規則2022』の最新版についての詳しい解説があったほか、CEOも言及していたRSPO共有責任のセッションも、『共有責任スコアカード』の説明ではその重要性について語られ、日本企業の状況も紹介されました。

\* \* \*

日本市場はRSPO共有責任の重要性が広く認知されているとは言えない状況ですが、講演では「パーム油のサプライチェーン全体で見られる環境問題や社会問題は、すべてのステークホルダーからの

## プログラム

<b>1日目</b>
オンライン基調講演
日本と持続可能なパーム油-進展と可能性-
2025大阪・関西万博におけるパーム油調達コード
独立小規模パーム油農家-RSPO日本会員が及ぼすインパクト
<b>2日目</b>
RSPOサプライチェーン認証について
RSPOサプライチェーン認証の詳細
Book & Claimについて
RSPOマーケットコミュニケーションと主張に関する規則2022の概要
RSPO共有責任について
質疑応答

協力とコミットメントが求められる体制的な課題」と日本企業に対して一層の協力が呼びかけられました。

最後に設けられた質疑応答のセッションでは企業のRSPO担当者からの具体的な質問に対して意見の交換と議論が続き、2日間の熱量を象徴するような光景となりました。

## 認証品の導入率70%以上の日本企業

日本の消費財メーカー (RSPO正会員) の  
使用総量 (パーム油、パーム核油、パーム核ケーキ、パーム油・パーム核油の派生品の合計)、  
認証品の使用量、認証グレードをACOPレポート2022から引用しました。

社名	認証導入率 (%)	パーム関連製品購入量	認証製品購入量	グレード別認証製品量			
				IP	SG	MB	B&C
カルビー	111	42691	47496	0	0	41360	6136
森永乳業	100	4758	4758	0	0	430	4328
キューピー	100	5677	5677	0	0	0	5677
ニチレイ	100	4626	4626	0	0	304	4322
フジパン	100	1100	1100	0	0	1100	0
麒麟HD	100	607	607	0	0	0	607
明治	89.73	192678	17298	0	0	17248	50
東洋水産	81.08	79000	64052	0	0	64000	52
ライオン	75.81	29178	22120	0	0	22120	0
資生堂	75.56	13045	9859	0	0	4735	5124
コープクリーン	75.46	1308	987	0	0	27	960
ファンケル	74.95	1086	814	0	0.4	740.6	373
サラヤ	73.53	4510	3316	0	6	10	3300

量の単位: トン

# 日本企業のRSPO正会員は141社、 準会員が163社、合計300社を越えました

RSPOの加盟団体は今や5800以上ですが、日本企業は300社を越えました。  
加盟数は世界の中でも上位に位置しています。  
このページのリストは2023年11月時点のものです。

## 正会員 Ordinary Member

### 消費財メーカー

- アイセロ (株)  
加 2023/07/26 <http://www.aicello.co.jp/>
- アサヒグループHD (株) 加 2016/12/29  
<https://www.asahigroup-holdings.com>
- 味の素 (株)  
加 2012/8/9 <https://www.ajinomoto.com>
- 江崎グリコ (株)  
加 2019/10/28 <http://www.glico.com>
- S&Bエスビー食品 (株)  
加 2017/10/22 <https://www.sbfoods.co.jp>
- 花王 (株)  
加 2007/4/4 <https://kao.co.jp>
- カゴメ (株)  
加 2018/6/7 <https://www.kagome.co.jp>
- (株)亀田製菓  
加 2016/7/27 <https://www.kamedaseika.co.jp>
- カルビー (株)  
加 2017/10/12 <https://www.calbee.co.jp>
- 川口産業 (株)  
加 2023/11/7 <http://www.kawaguchi-s.co.jp>
- キューピー (株)  
加 2018/6/28 <https://www.kewpie.com>
- キリンHD 加 2018/2/19  
<https://www.kirinholdings.com/jp/>
- (株)コーセー  
加 2019/5/3 <https://maison.kose.co.jp>
- (株)コープクリン  
加 2006/7/24 <https://coopclean.co.jp>
- 堺化学工業 (株)  
加 2021/10/7 <http://www.sakai-chem.co.jp/>
- サラヤ (株)  
加 2005/1/17 <https://www.saraya.com>
- (株)資生堂  
加 2010/8/10 <https://corp.shiseido.com>
- JOコスメックス (株) 加 2023/2/24  
<https://www.jocosmetics.jp/en/>
- スジャーター・めいらく (株)  
加 2018/12/13 <https://sujarta.co.jp>
- (株)ダイセル  
加 2018/8/28 <https://www.daicel.com>
- 太陽油脂 (株)  
加 2011/3/24 <https://www.taiyo-yushi.co.jp>
- タカナシ乳業 (株)  
加 2016/6/24 <https://www.takanashi-milk.co.jp>
- 玉の肌石鹸 (株)  
加 2012/10/12 <https://tamanohada.co.jp>
- 当栄ケミカル (株)  
加 2016/4/27 <http://toeichemical.co.jp>
- 東洋水産 (株)  
加 2015/9/3 <https://www.maruchan.co.jp>
- (株)ニイタカ  
加 2017/6/2 <https://www.niitaka.co.jp>
- (株)ニチレイ  
加 2016/1/18 <https://www.nichirei.co.jp>
- 日新化工 (株)  
加 2021/12/29 <https://nisshinkako.co.jp>
- 日清食品HD (株)  
加 2013/10/23 <https://www.nissin.com>

- 日世 (株)  
加 2019/3/3 <https://www.nissei-com.co.jp>
- 日本コルマー (株)  
加 2021/10/14 <https://www.kolmar.co.jp/>
- 日本水産 (株)  
加 2019/11/11 <https://www.nissui.co.jp/>
- 日本ハム (株)  
加 2020/8/11 <https://www.nipponham.co.jp>
- ハウス食品グループ本社 (株)  
加 2018/1/14 <https://housefoods-group.com>
- パスコ  
加 2022/8/15 <https://www.pasconet.co.jp/>
- (株)B-EX  
加 2022/10/6 <https://www.b-ex.inc/>
- ピジョン (株)  
加 2020/12/25 <https://www.pigeon.co.jp/>
- Fine Today 資生堂  
加 2022/4/1 <https://www.finetoday.com/en>
- ファンケル (株)  
加 2018/7/10 <https://www.fancl.jp/>
- フジパングループ本社 (株)  
加 2020/5/30 <https://www.fujipan.co.jp>
- (株)不二家  
加 2018/8/27 <https://www.fujiya-peko.co.jp>
- (株)ブルボン  
加 2019/10/2 <https://www.bourbon.co.jp>
- (株)ペリカン石鹸  
加 2019/11/29 <https://pelicansoap.co.jp>
- (株)ポーラ・オルビスHD  
加 2015/9/23 <https://www.po-holdings.co.jp>
- (株)北海道フーズ  
加 2021/10/8 <http://hfoods.co.jp/>
- (株)ポテトフード  
加 2021/6/24 <https://www.pfoods.jp>
- マリンフード (株)  
加 2023/7/12 <https://www.marinfood.co.jp>
- マルハニチロ (株)  
加 2019/7/4 <https://www.maruha-nichiro.co.jp>
- (株)マンダム  
加 2018/3/29 <https://www.mandom.co.jp/>
- ミマスクリーニング (株)  
加 2010/9/1 <http://mimasu-cc.co.jp>
- ミルボン (株)  
加 2019/3/14 <http://www.milbon.com>
- (株)明治HD  
加 2016/3/17 <https://www.meiji.co.jp>
- 森永製菓グループ (株)  
加 2019/10/30 <https://www.morinaga.co.jp>
- 森永乳業 (株)  
加 2018/3/22 <https://morinagamilk.co.jp>
- 山崎製パン (株)  
加 2020/2/21 <https://www.yamazakipan.co.jp>
- (株)やまひろ  
加 2019/12/6 <http://www.yamahiro.co.jp>
- 山芳製菓 (株)  
加 2021/9/17 <https://www.8044.jp/>
- 雪印メグミルク (株)  
加 2018/7/10 <https://www.meg-snow.com>
- ライオン (株)  
加 2006/3/26 <https://www.lion.co.jp>

- (株)ロッテ  
加 2019/4/22 <https://www.lotte.co.jp>

### 加工流通業

- 青木油脂工業 (株)  
加 2020/4/20 <http://blauon.co.jp>
- (株)ADEKA  
加 2012/10/18 <https://www.adeka.co.jp>
- 伊藤忠商事 (株)  
加 2006/6/12 <https://www.itochu.co.jp>
- 岩瀬コスファ (株)  
加 2017/4/10 <https://www.cosfa.co.jp>
- 岩谷産業 (株)  
加 2019/3/3 <http://www.iwatani.co.jp>
- 植田製油 (株)  
加 2017/9/11 <https://www.uedaoil.co.jp>
- AGC (株)  
加 2020/12/22 <https://www.agc.com>
- (株)エストケム  
加 2022/9/12 <https://eschem.co.jp>
- 太田油脂 (株)  
加 2018/1/14 <https://www.ota-oil.co.jp>
- オレオトレード・インターナショナル  
加 2018/3/22
- (株)カネカ  
加 2017/8/17 <https://www.kaneka.co.jp>
- カネダ (株)  
加 2017/12/14 <https://www.kaneda.co.jp>
- 川研ファインケミカル (株)  
加 2012/4/5 <https://www.kawakenfc.co.jp>
- 喜多組商事 (株)  
加 2018/7/17
- 木村産業 (株)  
加 2019/5/5 <http://kimsco.co.jp>
- 清田産業 (株)  
加 2019/6/28 <https://www.kiyota-s.com>
- 研光通商 (株)  
加 2017/7/2 <https://www.kenkoco.com>
- 高級アルコール工業 (株)  
加 2012/9/28 <https://www.kak.co.jp>
- 合同酒精 (株)オノエングループ  
加 2016/3/18 <https://onoen.jp>
- 興和 (株)  
加 2015/12/30 <https://www.kowa.co.jp>
- 小倉合成工業 (株)  
加 2018/6/5 <https://kokuragousei.co.jp>
- (株)小桜商会  
加 2018/5/31 <http://www.kozakura.co.jp>
- 小松屋 (株)  
加 2018/10/3 <http://www.komatsuya.co.jp>
- (株)コンフィテラ  
加 2022/4/29 <https://www.confitera.co.jp/>
- 幸商事 (株)  
加 2017/3/26 <http://www.saiwai.co.jp>
- 阪本薬品工業 (株)  
加 2012/9/14 <https://www.sy-kogyo.co.jp>
- (株)サンエース  
加 2015/8/10 <https://www.sunace-corp.com/>

RSPO創立当時は、日本の加盟企業はパーソナルケア企業や大手加工流通業の企業で、ごく少数でした。2010年代になり徐々に増えてきましたが、東京オリンピック・パラリンピックを控えた2019年には一気に増えました。その後食品業界にも加盟の動きは広がり、今やパーム油を扱う大手食品企業はほとんど加盟し

ています。バイオマス発電を手掛ける企業の加盟も増えてきました。

大阪万博でもパーム油の調達基準コードが定められるので、加盟数は増えると思われる。

RSPOでは、パーム油関連品（パーム油、パーム核油、パーム核ケーキ、派生品など）の取扱量が500トン以上の企業は正

会員で年会費200EUROです。

金融機関やNGOは、パーム油関連品は直接取り扱いませんが正会員になります。

取扱量500トン未満の企業は準会員（SCA）で100EUROです。

どちらも年次報告書（ACOPレポート）の提出が求められています。

- 三洋化成工業(株) 加2013/8/20  
W<https://www.sanyo-chemical.co.jp/>
- (株)J-オイルミルズ  
加2011/10/31 W<http://www.j-oil.com>
- 正栄食品工業(株)  
加2016/8/26 W<https://shoeifoods.co.jp>
- 昭栄薬品(株)  
加2017/1/21 W<http://www.shoei-yakuhin.co.jp>
- 昭和産業(株)  
加2018/7/17 W<https://www.showa-sangyo.co.jp>
- 新日本理化(株)  
加2015/7/9 W<https://www.nj-chem.co.jp>
- 住友商事(株) 加2019/11/11  
W<https://www.sumitocorp.com/ja/jp>
- ゼロワットパワー(株)  
加2018/11/29 W<https://zerowattpower.co.jp>
- 第一工業製薬(株)  
加2014/7/24 W<https://www.dks-web.co.jp>
- 太陽化学(株)  
加2017/2/14 W<https://www.taiyokagaku.com>
- 高砂香料工業(株)  
加2017/9/10 W<https://www.takasago.com/ja>
- 月島食品工業(株)  
加2014/10/24 W<https://tsukishima.co.jp>
- 築野食品工業(株)  
加2019/1/18 W<https://www.tsuno.co.jp/>
- テイカ(株)  
加2012/8/17 W<http://www.tayca.co.jp>
- 東信化学(株)  
加2018/2/19 W<http://www.toshinkagaku.co.jp>
- 東邦化学工業(株)  
加2013/4/29 W<https://toho-chem.co.jp/>
- 東洋合成工業(株)  
加2020/12/18 W<https://www.toyogosei.co.jp/>
- 豊田通商(株)  
加2015/5/28 W<https://www.toyota-tsusho.com>
- 長瀬産業(株)  
加2017/8/29 W<https://www.nagase.co.jp>
- 日華化学(株)  
加2017/11/13 W<https://www.nicca.co.jp>
- 日油(株)  
加2012/10/15 W<http://www.nof.co.jp>
- 日光ケミカルズ(株)  
加2011/2/9 W<https://www.nikkol.co.jp>
- 日清オイリオグループ(株)  
加2004/6/24 W<https://www.nisshin-oillio.com>
- 日本サーファクタント工業(株) 加2018/1/15  
W<https://www.ns-utsunomiya.com/>
- (株)日本触媒  
加2016/7/26 W<https://www.shokubai.co.jp/ja/>
- 日本食品(株)  
加2019/8/16 W<https://nisshoku-co.co.jp>
- (株)日本発電工業  
加2018/8/27 W<https://nhkogyo.co.jp>
- (株)日本ファインケム  
加2019/2/15 W<https://www.jfine.co.jp/>
- ネビオスーパー電力  
加2019/3/22 W<https://www.nebio-power.jp/>
- T,hasegawa  
加2021/9/5

- 汎アジア貿易(株) 加2017/10/19  
W<https://www.panasian.jp/Japansite/>
- 不二製油グループ本社(株)  
加2004/9/8 W<https://www.fujioilholdings.com>
- 富士通商(株)  
加2019/1/16 W<http://www.fujitusyou.com>
- (株)ブルーキャピタルマネージメント  
加2020/10/6 W<http://www.bcm-co.jp/>
- 保土谷化学工業(株)  
加2023/4/27 W<https://www.hodogaya.co.jp>
- 丸善石油化学(株)  
加2016/11/7 W<https://www.chemiway.co.jp>
- 丸善薬品産業(株) 加2012/8/27  
W<https://www.maruzen-chem.co.jp>
- 丸紅(株)  
加2015/2/22 W<https://www.marubeni.com/jp/>
- 三井化学(株) 加2015/9/16  
W<https://jp.mitsuichemicals.com/jp/index.htm>
- 三井物産(株)  
加2008/3/11 W<https://www.mitsui.com>
- 三菱ケミカル(株)  
加2017/11/7 W<https://www.m-chemical.co.jp>
- 三菱商事(株)  
加2004/8/4 W<https://www.mitsubishicorp.com>
- ミヨシ油脂(株)  
加2017/9/21 W<https://www.miyoshi-yushi.co.jp>
- 明和エンジニアリング(株)  
加2019/1/17 W<https://meiwa-engineering.co.jp>
- 横関油脂工業(株)  
加2018/8/27 W<http://yokozeki-yushi.jp>
- ラクトジャパン(株) 加2023/2/22  
W<https://www.lactojapan.com/ja/index.html>
- (株)ラデッシュ・ソリューション  
加2019/1/9 W<https://www.radish.co.jp>
- 理研ビタミン(株)  
加2016/1/12 W<https://www.rikenvitamin.jp>
- LOPS(株)  
加2019/4/27 W<http://lops.co.jp>

## 小売業

- イオン(株)  
加2018/12/20 W<https://www.aeon.info>
- (株)セブン&アイ・ホールディングス  
加2020/1/30 W<https://www.7andi.com>
- 日本生活協同組合連合会  
加2017/10/25 W<https://jccu.coop>
- パルシステム生活協同組合連合会  
加2021/8/24  
W<https://seishokyo.pal-system.co.jp>

## 環境自然保護系NGO

- 認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン  
加2019/5/27 W<https://www.bctj.jp>

## 準会員 Supply Chain Associate Member

### サプライチェーンアソシエイト

(株)アイネ/アーク(株)/I-T-O(株)/旭化成ファインケム(株)/アステナホールディングス(株)/天野エンザイム(株)/イエナ商事(株)/池田糖化工業(株)/池田物産(株)/石原産業(株)/稲垣薬品興業(株)/イヌイ(株)/(株)乾工業所/今中(株)/井村屋(株)/(株)岩田商会/UHA味覚糖グループ/宇津商事(株)/(株)永廣堂本店/永和ホールディングス(株)/NSファーファ・ジャパン(株)/(有)エムコ食品/MP五協フード&ケミカル/オーケム通商(株)/(株)オーケム/大阪油脂工業(株)/岡畑産業(株)/(株)オリエンタルランド/化成商品商事(株)/加藤産業(株)/兼松ケミカル(株)/グラムエンタープライズ(株)/川原石油化学(株)/KISCO(株)/木曾産業(株)/北沢産業(株)/共栄社化学(株)/協和香料興産(株)/久木田化学工業(株)/(株)クラウン・パッケージ(株)クラブコスメティクス/ケアイケミカル(株)/研三商事(株)/広栄工業(株)/宏輝(株)/光洋商会(株)/交洋ファインケミカル(株)/交洋貿易(株)/国分グループ(株)/コーケンフード&フレイバー(株)/(株)コスメナチュラルズ/寿貿易/桜井食品(株)/THE SAKUEA GREEN(株)/佐々木化学(株)/(株)サノ/三栄源エフ・エフ・アイ(株)/三光(株)/三洲食研(株)/三晶(株)/(株)サン・ダイコー/サン・パシフィック・エンタープライズ(株)/(株)三陽商会/三和油脂興業(株)/JTB/(株)GSIクレオス/シードルック(株)/(株)シバハシケミファ/渋谷油脂(株)/島貿易(株)/昭和興産(株)/信越化学工業(株)/新日本ケミカル(株)/生活クラブ生協/セイワサプライ(株)/(株)成和化成/Save the Ocean(株)/セティ(株)/センス&トリクス(株)/(株)創健社/ノーダニツカ(株)/ダイキン工業(株)/大東化成工業(株)/大同化成工業(株)/大日精化工業(株)/大保香料(株)/太平化学産業(株)/高田香料(株)/(株)立花商店/チタン工業(株)/(株)地の塩社/千葉製粉(株)/蝶理(株)/ティックファイン(株)/(株)テイラー・インポート/(株)テクノープル/デムライト(株)/東亜化成(株)/東北化学製品(株)/東洋サイエンス(株)/東洋ナッツ食品(株)/トーアス(株)/トーエー食品(株)/(株)トキワ/トビー工業(株)/中沢乳業(株)/中日本カプセル(株)/友栄食品興行(株)/ナショナル美松(株)/(株)ナンバースリー/西野金稜(株)/日弘ビックス(株)/日産化学(株)/日進化成(株)/(株)日東物産商事/日本板硝子(株)/日本エマルジョン(株)/日本コーンスターチ(株)/(株)ネイチャーズウェイ/(株)ネオスラボラトリー/(株)ネクスト・イノベーション/BIO ACTIVES JAPAN(株)/林六(株)/パシフィック・プロダクツ(一社)ハンドソープ協会/比果産業(株)/日比忠(株)/ビューティテック/フィグラ(株)/不二化成(株)/フジサワ化成(株)/藤本化学製品(株)/ベンチャーケミカル(株)/豊国製油(株)/ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)/(株)ホテイフーズ/本城化成(株)/(株)マツモト交商/松山油脂(株)/(株)マルキチ/丸善製薬(株)/三谷産業(株)/(株)雅化成/三好化成(株)/(株)武蔵野化学研究所/睦物産(株)/明光化学(株)/(株)メディプラス製薬/森下産業(株)/森下仁丹(株)/山本通産(株)/油化産業(株)/油脂製品(株)/(株)ユノス/ユニ・チャーム(株)/ユニバーサル・デタージェント(株)/(有)リンデン/綿半トレーディング(株)

## 賛助会員

- 個人
- マークの読み解き方  
加=加入年月日 W=WEB

# 日本の大手加工流通業5社は認証油を82万トン扱うも、国内流通量は少量です

RSPO正会員になっている日本の加工流通業は76社あります。

その中で、日本のパーム油市場の80%を占めるといふ3商社(三井物産、伊藤忠商事、三菱商事)と、油脂業界の大手不二製油と日清オイリオを含めて5社のACOPレポート2022を調べてみました。

## 5社のパーム油とパーム核油の総取り扱量は220万トン!

まずは、パーム油とパーム核油の総取扱量を見ていきます。加工流通業なので、消費財メーカーと違って、パーム核ケーキやパーム派生品の取り扱いはありません。ここでは四捨五入して万トンの単位でそろえています(以下同)。

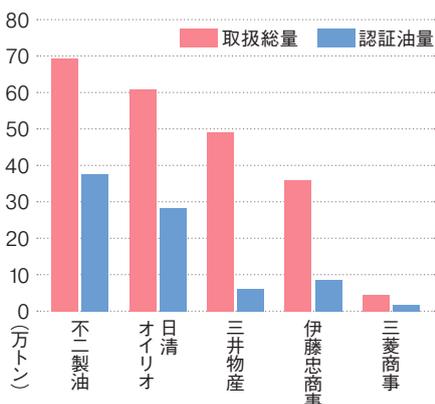
不二製油は69万トン、日清オイリオは61万トン、三井物産は49万トン、伊藤忠商事は36万トン、三菱商事は5万トン、合計220万トンです。【グラフAの赤い棒】

日本全体の輸入量は79万トンですから、大手流通業者の取扱量の大きさがわかります。

## 5社の認証油取扱量は合計83万トン

次は、認証パーム油と認証パーム核油の購入量を見ると、不二製油は38万トン、日清オイリオは28万トン、三井物産は6万トン、伊藤忠商事は9万トン、三菱商事は2万トン、合計して83万トンあります。【グラフAの青い棒】

グラフA 企業別 パーム油+核油の取扱総量と認証油量



認証油取扱量は日本の輸入量を超えていますから、国内のパーム油とパーム核油を100%認証油に切り替えるのはむずかしいことではないようです。

認証油(パーム油+パーム核油)の導入率を見ると、不二製油54%、日清オイリオ46%、三井物産12%、伊藤忠商事23%、三菱商事36%です。

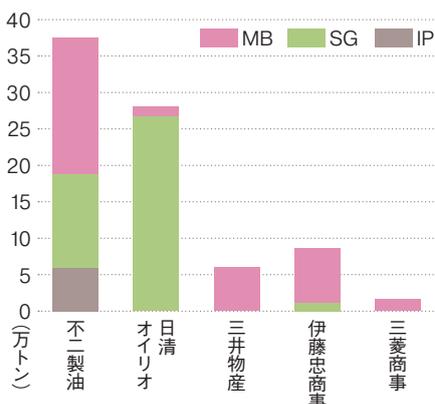
三井物産は認証油導入にあまり熱心でないのかもしれない。

## どのグレードを扱うかは各社さまざま

RSPOの認証にはIP(単一農園まで完全にトレーサビリティがとれる)、SG(農園までトレーサビリティがとれる)、MB(認証油と非認証油が混じるがその割合は明確で、認証油の分だけが認証油としてカウントされる)、B&C(認証油は入っていない、認証油の証券が生産者と最終製品製造者、販売者との間でオンライン取引される)の4つのグレードにわかれます。認証油の価格はB&C、MB、SG、IPとトレーサビリティが長く追えるものほど高くなります。

パーム油加工流通業ではB&Cは扱っ

グラフB 企業別 認証油グレードの割合



ていません。企業ごとに認証油のグレードを見てみましょう。【グラフB】

不二製油はIP 6万トン、SG15万トン、MB19万トンと大量に取り扱っていますし、入手しにくいといわれるIPも調達しています。

日清オイリオはSG27万トン、MB 1万トンとSGが非常に多いのが特徴です。

三井物産はSGはごく少量、MB 6万トンでMBの割合が多いです。

伊藤忠商事はSG 1万トン、MB7万トンです。三菱商事はMB 2万トンでSGはごく少量です。

## 認証油の多くは海外で使用されている

ACOPレポートには「調達した認証油をどの地域で使用していますか?」という質問があり、各エリアの割合を%で回答します。地域分けは、ヨーロッパ、北米、マレーシア、インドネシア、中国、インド、中南米、アフリカ、“その他”(rest of world)に分類されていますが、日本は最後の“その他”に入ります。【グラフC】

不二製油は、北米42%、マレーシア28%、ヨーロッパ17%、日本を含む“その他”が16%です。

日清オイリオはヨーロッパ41%、マレーシア39%とヨーロッパが多く、日本を含む“その他”は12%です。

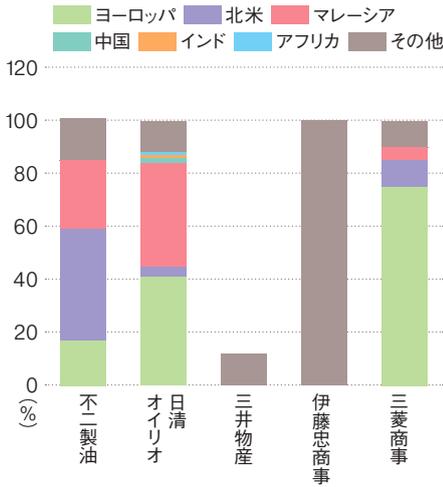
三井物産は“その他”が12%と表示していますが、残りの88%がどこで使用されているかは記述されていません。

伊藤忠商事は認証油はすべて日本を含む“その他”で使われています。

三菱商事はヨーロッパ75%が多く、日本を含む“その他”は10%にすぎません。

ヨーロッパは世界最大の認証油の市場

グラフC 企業別 認証油使用地域の割合



であり、消費者の認証油への関心も高いので市場に入っていくには認証油であることが重要です。

## 日本での認証油調達の現状

日本では認証油、それもMB以上の認証油は入手しにくいといわれています。

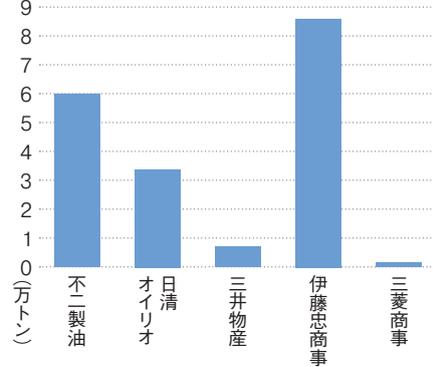
実際にどのくらいの認証油が“その他”の地域で使用されているか見てみましょう。“その他”にはアジアやオセアニアなどさまざまな国が含まれますが、5社

は日本企業なので、日本が主だと考えられます。

認証油の取扱量に、“その他”で使用された割合をかけたのが【グラフD】です。認証油量は5社を合計しても20万トンにも届きません。日本の輸入量はパーム油と核油で約79万トン、すべてを認証油に切り替えるのは困難と思われます。

企業別にみると不二製油が6万トン、日清オイリオが3万トン、三井物産が1万トン、伊藤忠商事が9万トン、三菱商事が0.2万トンです。意外なことに、パーム油・パーム核油の取扱量、認証油の取扱量ではそんなに大きくない伊藤忠

グラフD 企業別“その他”で使用している認証油量



商事が“その他”に調達している認証油量が一番多かったのです。また、IPやSGの取扱量が多い不二製油や日清オイリオは、“その他”に調達する率は低かったため、日本でIPやSGを調達するのは難しいことも分かります。

\*\*\*

RSPOではフィジカルな認証油 (MB以上) への切り替えを強く推奨しています。

認証油の導入が遅いといわれていた日本でも東京オリンピック・パラリンピックを機に消費財メーカーなどRSPOへの加盟、認証油の導入が進んできました。ただ、B&Cが多くMB以上はあまり進んでいません。日本の大手加工流通業者のACOPレポートを見ると、日本市場ではMB以上の認証油が入手しづらいことがわかりました。認証油の需要がないから進まないのか、認証油が市場にないから進まないのか卵が先かニワトリが先かという話になりますが、日本の加工流通業者は十分な量の、認証油を扱っているのですから、知恵を働かせればフィジカルな認証油 (MB以上) への切り替えも可能だと思われます。

## 不二製油 Fuji Oil Group

会員番号: 2-0009-04-000-00 加盟日: 2004/09/08

※紹介文はRSPOの自己紹介文を翻訳したものです

不二製油グループは、1950年の創業以来、食品素材のスペシャリストとして、安心・安全・品質・環境保全に配慮した製品を世界に提供しています。当社グループは独自の研究開発により、革新的で付加価値の高い製品を数多く生み出してきました。創業時より培われてきたノウハウは、R&Dセンターで確立・完成されています。

相互利益とパートナーシップには密接なコミュニケーションが欠かせないと私たちは信じています。この強い信念が油脂産業における世界的なプレゼンスを築いてきました。今日ではチョコレートや製菓、製パン、アイスクリーム、乳製品といったさまざまな用途に適した特殊油脂を開発・販売するという困難な課題に取り組むことで、お客様の成功に貢献することが可能だと確認しています。

費目	使用総量 (t)	認証使用量 (t)	認証品使用比率
パーム油	549709	307158	55.88%
パーム油核油	141980	68361	48.15%
派生品	0	0	-
合計	691689	375519	54.29%

単位: トン

認証グレード	認証パーム油量	認証パーム核油量	認証派生品量
IP	59308	0	0
SG	92954	34671	0
MB	154896	33690	0
Credit	0	0	0
合計	307158	68361	0

パーム油製品販売地域
ヨーロッパ
北米
マレーシア
インドネシア
中国
中南米
その他

認証品の使用地域	%
ヨーロッパ	17
北米	42
マレーシア	26
インドネシア	0
中国	0
インド	0
中南米	0
アフリカ	0
その他	16

今後予定している計画	check
1 RSPOワーキンググループまたはタスクフォースへの参加	○
2 独立小農 (ISH) の支援	×
3 RSPO小農トレーナー・アカデミーへの貢献	×
4 RSPO小農支援基金への資金拠出	×
5 小農認証プロジェクトへの直接投資	○
6 管轄区域/ランドスケープ・アプローチへの関与/直接投資	○
7 保全および復元イニシアティブへの直接/共同投資	×
8 修復と補償 (RaCP) プロセス、保全・回復イニシアティブへの直接/共同投資で組合員を支援するための資金拠出	×
9 持続可能なアブラヤシ製品の生産・消費を促進するための人員配置	×
10 上流または下流のサプライチェーンにおいて、CSPOの生産または消費を促進するための具体的な方針および行動計画。	×
11 活動計画なし	×
12 その他 顧客にRSPO製品を提供する可能性を創出し、従来型製品からRSPO製品への移行を促す。	○

# 日清オイリオ The Nisshin Oilio Group

会員番号: 2-0365-12-000-00 加盟日: 2004/06/24

※紹介文はRSPOの自己紹介文を翻訳したものです

日清オイリオグループは、食用油の分野における国内トップクラスの製造会社です。事業領域は、油脂事業、加工油脂事業、健康食品事業、ファインケミカル事業、大豆食品・素材事業にまで及びます。私たちは最高の技術で「植物本来の力」を引き出し、「おいしさ、健康、美しさ」をお客様にお届けします。

また、日清オイリオグループはパーム油製品を扱う複数の企業の親会社です。Intercontinental Specialty Fats Sdn Bhd (ISF) および Industrial Quimica Lasem, S.A.U. (IQL) がパーム油製品を扱う主な子会社です。

ISFの主な事業は、チョコレート、製菓、製パン、スナック食品、アイスクリーム業界向けの特種油脂の生産と販売であり、IQLはファインケミカル製品(工業用・化粧品用オイル、MCT等)の製造・販売を担っています。

費目	使用総量 (t)	認証使用量 (t)	認証品使用比率
パーム油	494114	259875	52.59%
パーム油油	112762	23124	20.51%
派生品	23	0	0.00%
合計	606899	282999	46.63%

単位: トン

認証グレード	認証パーム油量	認証パーム核油量	認証派生品量
IP	0	0	0
SG	252351	16467	0
MB	7524	6657	0
Credit	0	0	0
合計	259875	23124	0

パーム油製品販売地域	認証品の使用地域	%
北米 中国 インド マレーシア インドネシア アフリカ 中南米 その他	ヨーロッパ	41
	北米	4
	マレーシア	39
	インドネシア	0
	中国	2
	インド	1
	中南米	0
	アフリカ	1
	その他	12

今後予定している計画	check
1 RSPOワーキンググループまたはタスクフォースへの参加	×
2 独立小農 (ISH) の支援	×
3 RSPO小農トレーナー・アカデミーへの貢献	×
4 RSPO小農支援基金への資金拠出	×
5 小農認証プロジェクトへの直接投資	×
6 管轄区域/ランドスケープ・アプローチへの関与/直接投資	×
7 保全および復元イニシアティブへの直接/共同投資	×
8 修復と補償 (RaCP) プロセス、保全・回復イニシアティブへの直接/共同投資で組合員を支援するための資金拠出	×
9 持続可能なアブラヤシ製品の生産・消費を促進するための人員配置	×
10 上流または下流のサプライチェーンにおいて、CSPOの生産または消費を促進するための具体的な方針および行動計画。	×
11 活動計画なし	×
12 その他 私たちは、コーポレート・レポートを通じてCSPOを推進し、お客様のご要望にお応えします。	○

# 伊藤忠商事 Itochu Corporation

会員番号: 2-0034-06-000-00 加盟日: 2006/06/12

※紹介文はRSPOの自己紹介文を翻訳したものです

日本の総合商社の活動はかつてないほど多様化しています。これら商社のリーディングカンパニーである伊藤忠商事も、同様の潮流に従い独自の進化を遂げてきました。当社は80か国以上に拠点をもち、幅広い業界・領域をカバーするグローバル企業です。年間収益ではあらゆる種類の企業の中でも世界最大手の一つに数えられています。

1997年4月には、各事業を独立経営するディビジョンカンパニー制を採用しました。1999年には執行役員を導入し、取締役会と経営者の職務をより明確に分離しました。ディビジョンカンパニー組織は、私たちの巨大な事業スケールのメリットを生かしながら、ボーダーレスで急速に進化する今日の市場への迅速な対応を促します。私たちはあらゆる事業において社会的責任の中心的な役割を担っています。その代表例として、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

費目	使用総量 (t)	認証使用量 (t)	認証品使用比率
パーム油	325303	84965	26.12%
パーム油油	34619	1050	3.03%
派生品	0	0	-
合計	359922	86015	23.90%

単位: トン

認証グレード	認証パーム油量	認証パーム核油量	認証派生品量
IP	0	0	0
SG	11200	0	0
MB	73765	1050	0
Credit	0	0	0
合計	84965	1050	0

パーム油製品販売地域	認証品の使用地域	%
その他	ヨーロッパ	0
	北米	0
	マレーシア	0
	インドネシア	0
	中国	0
	インド	0
	中南米	0
	アフリカ	0
	その他	100

今後予定している計画	check
1 RSPOワーキンググループまたはタスクフォースへの参加	×
2 独立小農 (ISH) の支援	×
3 RSPO小農トレーナー・アカデミーへの貢献	×
4 RSPO小農支援基金への資金拠出	×
5 小農認証プロジェクトへの直接投資	×
6 管轄区域/ランドスケープ・アプローチへの関与/直接投資	×
7 保全および復元イニシアティブへの直接/共同投資	×
8 修復と補償 (RaCP) プロセス、保全・回復イニシアティブへの直接/共同投資で組合員を支援するための資金拠出	×
9 持続可能なアブラヤシ製品の生産・消費を促進するための人員配置	×
10 上流または下流のサプライチェーンにおいて、CSPOの生産または消費を促進するための具体的な方針および行動計画。	×
11 活動計画なし	×
12 その他 <sup>※1</sup>	○

※1 当社のサプライヤーはすべてRSPOメンバーであり、その製油所はRSPO (IP/SGまたはMB) のステータスを有しています。私たちはサプライヤーに対し、RSPOシステムを利用し、サプライチェーンを持続可能で透明性のあるものにするよう継続的に要請しています。また、RSPOを推進し、持続可能なパーム油の重要性をお客様に説明していきます。バリューチェーンにおける持続可能性のための「方針と基本的な考え方」を定め、特にパーム油の持続可能な調達を支援しています。19年度からは、より詳細な方針へとバージョンアップしました。その内容は、NDPE油の取引、サプライチェーンにおける複雑なトレーサビリティの確保、人権に配慮したサプライヤーの選定など、パーム油のサプライチェーンにおける透明性と持続可能性に貢献するために、トレーダーとしてできることを盛り込んでいる。

# 三井物産 Mitsui & Co., Ltd

会員番号: 2-0082-08-000-00 加盟日: 2008/03/11

※紹介文はRSPOの自己紹介文を翻訳したものです

三井物産は、パーム油をはじめとする多様な商品の取引や、貿易活動に関わるお客様やサプライヤーのための資金調達、国際産業におけるプロジェクトのオーガナイズ、資金調達や投資事業への参加、原材料と設備の調達支援、製造に必要な新しい技術やプロセスの提供、製品の輸送・販売の協力など、さまざまな事業活動をグローバルに展開する総合商社です。

私たちは挑戦と創造、自由闊達、そして人材育成の価値観を定めた理念を育んでまいりました。私たちの企業使命は、大切な地球と、そこに住む人々の夢溢れる未来づくりに貢献することです。そのために、世界中のお客様のニーズに応える「グローバル総合力企業」を目指します。

費目	使用総量 (t)	認証使用量 (t)	認証品使用比率
パーム油	460000	56000	12.17%
パーム油油	30000	4000	13.33%
派生品	0	0	-
合計	490000	60000	12.24%

単位: トン

認証グレード	認証パーム油量	認証パーム核油量	認証派生品量
IP	0	0	0
SG	1000	0	0
MB	55000	4000	0
Credit	0	0	0
合計	56000	4000	0

パーム油製品販売地域
北米
マレーシア
その他

認証品の使用地域	%
ヨーロッパ	0
北米	0
マレーシア	0
インドネシア	0
中国	0
インド	0
中南米	0
アフリカ	0
その他	12

今後予定している計画	check
1 RSPOワーキンググループまたはタスクフォースへの参加	×
2 独立小農 (ISH) の支援	×
3 RSPO小農トレーナー・アカデミーへの貢献	×
4 RSPO小農支援基金への資金拠出	×
5 小農認証プロジェクトへの直接投資	×
6 管轄区域/ランドスケープ・アプローチへの関与/直接投資	×
7 保全および復元イニシアティブへの直接/共同投資	×
8 修復と補償 (RaCP) プロセス、保全・回復イニシアティブへの直接/共同投資で組合員を支援するための資金拠出	×
9 持続可能なアブラヤシ製品の生産・消費を促進するための人員配置	×
10 上流または下流のサプライチェーンにおいて、CSPOの生産または消費を促進するための具体的な方針および行動計画。	○
11 活動計画なし	×
12 その他。	×

# 三菱商事 Mitsubishi Corporation

会員番号: 2-0005-04-000-00 加盟日: 2004/08/04

※紹介文はRSPOの自己紹介文を翻訳したものです

三菱商事は、80カ国に200以上の拠点をもつ日本最大の総合商社です。500社を超えるグループ会社と合わせて約70,000人の多国籍従業員を雇用しています。長年にわたり、エネルギー、金属、機械、化学、食品、雑貨などあらゆる業界の世界中のお客様とビジネスを行ってまいりました。

当社事業は資源開発から貿易まで、さまざまな方法で環境と結びついています。事業と環境の持続可能性を確保するために、環境に配慮した企業活動を行うことを最も重視しています。私たちは企業活動が環境に与える影響を、細心の注意を払って分析・評価し、最も効率的かつ実践的な方法で環境負荷を低減するよう常に努力しています。

費目	使用総量 (t)	認証使用量 (t)	認証品使用比率
パーム油	34536	10662	30.87%
パーム油油	11545	6376	55.23%
派生品	0	0	-
合計	46081	17038	36.97%

単位: トン

認証グレード	認証パーム油量	認証パーム核油量	認証派生品量
IP	0	0	0
SG	857	94	0
MB	9805	6282	0
Credit	0	0	0
合計	10662	6376	0

パーム油製品販売地域
ヨーロッパ
北米
マレーシア
その他

認証品の使用地域	%
ヨーロッパ	75
北米	10
マレーシア	5
インドネシア	0
中国	0
インド	0
中南米	0
アフリカ	0
その他	10

今後予定している計画	check
1 RSPOワーキンググループまたはタスクフォースへの参加	×
2 独立小農 (ISH) の支援	×
3 RSPO小農トレーナー・アカデミーへの貢献	×
4 RSPO小農支援基金への資金拠出	×
5 小農認証プロジェクトへの直接投資	×
6 管轄区域/ランドスケープ・アプローチへの関与/直接投資	×
7 保全および復元イニシアティブへの直接/共同投資	×
8 修復と補償 (RaCP) プロセス、保全・回復イニシアティブへの直接/共同投資で組合員を支援するための資金拠出	×
9 持続可能なアブラヤシ製品の生産・消費を促進するための人員配置	×
10 上流または下流のサプライチェーンにおいて、CSPOの生産または消費を促進するための具体的な方針および行動計画。	○
11 活動計画なし	×
12 その他	×

# WWFや動物園、生産国の環境保全団体などがさまざまな活動を展開中

RSPOには産業界だけでなく、社会開発系NGO、環境自然保護系NGOも加盟しています。ここではRSPOに加盟する環境自然系NGOが、持続可能なパーム油のために行った2年間の活動、およびそれが団体の活動に占める割合を、いくつか調べてみました。

## 43の環境保全団体や動物園が、RSPOに加盟

RSPOに加盟する環境保全団体は43団体、11カ国から参加しています（右ページ地図参照）。

おおまかにいうと、WWFやWAZAなどグローバルな組織、米国や英国、オーストラリアなどの動物園、生産国であるマレーシアやインドネシアの団体、そのほかの環境系NGOに分けられます。

どの団体も熱帯雨林の保全、生物多様性保全に重点を置いています、その具体的な活動はさまざまです。

ちなみに、NGOがRSPOに加盟できるのは正会員のみですが、年会費はその団体の予算規模によって異なります。

## WWF

### WWF インターナショナル

1961年に設立された100か国以上で活動し500万人のサポーターを持つグローバルな自然環境保全団体。生物多様性の保全、再生可能な天然資源の持続可能な利用の確保、汚染と無駄な消費の削減などを目指しています。

WWFインターナショナルはRSPOの創立に関わり、RSPO理事会をはじめ、常設の委員会、作業部会、タスクフォースにおいて重要な役割を担っています。

WWFは企業、生産国と消費国の政府、投資家、NGO、消費者などと緊密に協力し、主要市場において持続可能なパーム油を普及させるべく働きかけ、持続可能なパーム油の必要性に対する消費者の意識を高める活動を行っています。消費財メーカーや流通加工業者には、「パーム油バイヤーズ・スコアカード」で認証

油への取り組みでその進捗を評価することで持続可能なパーム油の需要を促進しています。

また、生産国の政府、生産者らと「責任共有の原則」を協働し、小農の能力構築、持続可能な土地利用計画プロセスへの関与、管轄権アプローチ、現場での保全・修復プロジェクトの実施に取り組んでいます。

2020年からWWFはアジア持続可能なパーム油リンク（ASPOL）プログラムを実施し、アジア5カ国（インドネシア、マレーシア、インド、中国、シンガポール）におけるパーム油の持続可能な生産、取引、消費を促進しています。

■パーム油に関する活動：10%

### WWF マレーシア

RSPOグループ認証を小農に推奨、RSPO/CSPOの導入と供給の促進、環境、社会ガバナンス（ESG）ツールの配布などを行っています。非RSPO農園企業に対しても森林の伐採や農地転換を避けるように働きかけています。

■パーム油に関する活動：10%

### WWF インドネシア

リアウ州の6つの独立小農グループに協力し、独立小農の能力開発を行い地元当局からより大きな賛同を得ています。国内のRSPO/CSPO普及のため小売店や外食チェーンなどに働きかけたり、銀行に対するESG投資のための情報提供などの技術支援も行っています。また、テッソ・ニロ国立公園内の森林を保護するために世界の主要なパイヤーを巻き込んだプロジェクトを実施しています。

■パーム油に関する活動：40%

## WAZAとWAZA傘下の動物園

### WAZA（世界動物園水族館協会）

50カ国以上の400近い主要な動物園水族館の国際的な団体で保全活動の最前線にいます。毎年動物園水族館を訪れる7億人以上の人に、種と自然の保全のために行動を起こすよう促しています。

2018年、WAZAはRSPOと覚書を交わし、WAZA会員に持続可能なパーム油について、多くの情報を提供してきました。会員の動物園はそれぞれ園内での展示やキーパーズトーク、ワークショップなどさまざまな活動を展開しています。

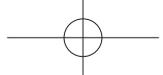
2022年には、Palm Oil Scanアプリをシャイアンマウンテン動物園など複数の園の協力で開発しました。このアプリは、消費者が商品をスキャンすると、どの企業が100% CSPO<sup>※1</sup>の調達に向けて最も前進しているか、また企業がRSPOのメンバーかどうかを知ることができます。消費者が動物園のサイトから無料ダウンロードすれば買い物するとき持続可能なパーム油製品を選択しやすくなります。米国、カナダ、英国で開始され、ニュージーランドとオーストラリアでも開発が続けられています。

■パーム油に関する活動：7%

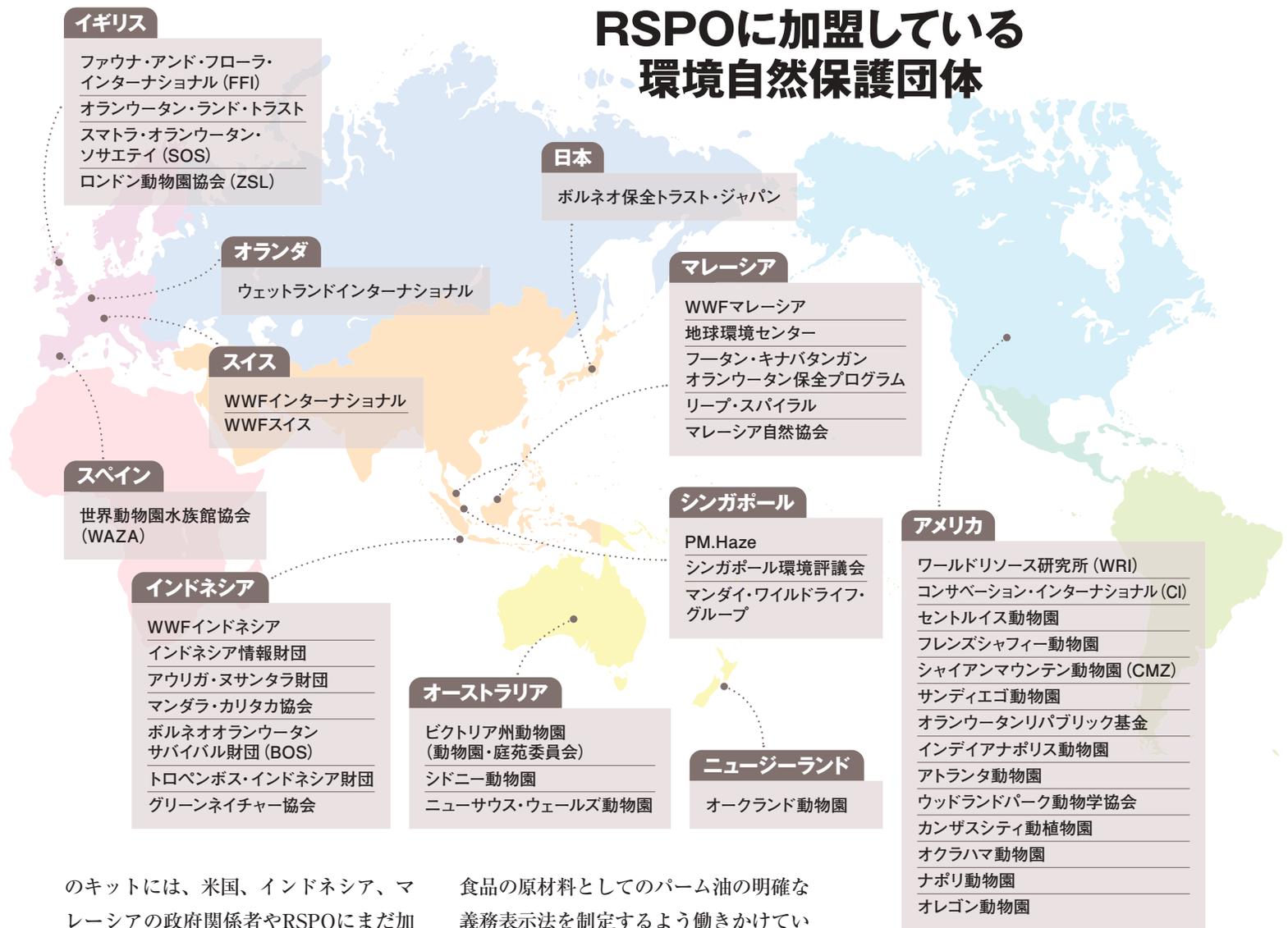
### シャイアンマウンテン動物園（CMZ）

CMZはPalm Oil Scanでは米国とカナダの運営を担当し、毎日情報をアップデートするとともに、評価企業数を増やしています。

また、持続可能なパーム油のオンラインツールキットも公開し他の動物園や水族館が利用できるようにしています。こ



# RSPOに加盟している 環境自然保護団体



のキットには、米国、インドネシア、マレーシアの政府関係者やRSPOにまだ加盟していない企業にあてた手紙の見本も入っています。

■ パーム油に関する活動：10%

## ロンドン動物園協会 (ZSL)

ZSLは、国際的な自然保護慈善団体で、世界各地での保全活動を行うと共にロンドン動物園とウィップスネード動物園を運営しています。ZSLの国際的な保全プログラムであるZSLインドネシアは、2002年に設立され、アブラヤシが生物多様性に与える影響についての科学的調査と、その影響を緩和するためのパーム油産業との協力を行っています。

■ パーム油に関する活動：記載なし

## ビクトリア州動物園

野生動物の絶滅と闘うため種の繁殖と回復プログラム、そして絶滅の危機に瀕している野生動物が直面する脅威を軽減する活動をしています。消費者主導によるCSPO<sup>※1</sup>の需要創出を支援するため、

食品の原材料としてのパーム油の明確な義務表示法を制定するよう働きかけています。

■ パーム油に関する活動：2%

\*\*\*

## マレーシア自然協会

1940年に設立されたマレーシアで最も歴史のある科学的な非政府・非営利団体で、NDPE (No Deforestation No Peat & Exploitation 森林伐採の禁止、泥炭と資源の搾取の禁止) を提唱しています。マレーシアにおける土地利用開発と管理に関して、さまざまな利害関係者と協議しています。RSPO方針とHCV/HCSを支持し、アブラヤシの小規模農家がRSPOの目標に沿ったMSPO<sup>※2</sup>を採用することを強く奨励しています。

■ パーム油に関する活動：30%

## トロペンボス・インドネシア財団

持続可能な商品とサービスの生産を促進し、森林や天然資源を不用意な開発から守り、ステークホルダーの能力を向上させるために、科学的根拠に基づいた提

言を提供する政府系NGO。森林プランテーションとアブラヤシプランテーションの管理に影響を与えるHCVアプローチを推進しています。独立小農向けにパーム油のためのFarmer Field School (FFS) を開催し、農民に認証苗の使用、有機肥料の使用、有機農薬や除草剤の使用など小農の能力向上に努めています。小農/独立小農のグループがISPO<sup>※3</sup>およびRSPO認証を取得するための手続きの支援を行っています。

■ パーム油に関する活動：35%

## ボルネオ保全トラスト・ジャパン

ボルネオの生物多様性保全のために、分断化された野生動物の生息地をつなぐ緑の回廊プロジェクトを進めるとともに、持続可能なパーム油の認知度を上げるためにセミナーを開催したりパーム油白書を発行しています。

■ パーム油に関する活動：10%

※2 マレーシアの持続可能なパーム油認証制度  
 ※3 インドネシアの持続可能なパーム油認証制度

# バイオマス発電の燃料としてのパーム油やPKSは、さまざまな問題があります

再生可能エネルギーとしてバイオマス発電に期待がよせられていますが、日本では迷走しているといわざるをえません。数年前新規参入が多かったパーム油発電は事実上破綻、その後に急増したPKSもさまざまな課題が突き付けられています。

## パーム油発電は事実上破綻

植物油生産量1位のパーム油は、バイオ燃料としてインドネシアやEUなどで大量に消費されていました。

しかし、パーム油を採るアブラヤシのプランテーションが熱帯雨林を破壊する、野生動物の絶滅を招くと厳しく批判され、2010年代からEUではバイオ燃料としてのパーム油を輸入は禁止するなど規制を強め、生産国と軋轢が強まりました。

2010年代から日本ではパーム油発電が徐々に増えていきました。パーム油は供給が安定している、価格も安価、発電の設備投資が少なくすむといった理由だけでなく、FIT（固定価格買い取り制度）の対象になってことも大きな誘因となりました。

2017年3月、パーム油発電でFITに申請した企業は非常に多く、仮にすべての案件が認定されたら、消費するパーム油は従来の日本の輸入量の10倍にもなり、環境負荷は甚大なものになるところでした。

その後、FIT認定にはRSPO認証油（IP、SG）を使用することが条件になりました。IP、SGは入手しにくく、調達は可能なのかといわれていました。

実際、京都府福知山市の三恵観光、宮城県角田市のHISスーパー電力、京都府舞鶴市の日立造船…いずれも鳴り物入りで計画されましたが、撤退しました。

また、認証油への切り替えを猶予される経過措置期間も2023年3月で終了し、以前から稼働していたパーム油発電所もFITの対象から外れました。

2023年12月稼働しているパーム油発電所は一つもありません。<sup>※1</sup>

そもそもパーム油は、ライフサイク

ルGHG（栽培から製造、輸送までの温室効果ガスの排出量）は化石燃料以上で、バイオマス発電の燃料としては失格です。

公害などを問題とする地元の住民運動、環境団体の反対運動、FIT/FIPの買い取り価格の値下げ、認証油の入手の難しさなどパーム油発電は事業として成り立つのかと議論になっていました。

そこにコロナ禍、ウクライナ、ガザなど世界情勢の影響でエネルギー価格は高騰していますが、パーム油価格も急上昇しています【グラフA参照】。それに加えての円安ですから日本でのパーム油発電は破綻したといえるでしょう。

グラフA パーム油価格変遷



## PKSの輸入は急成長

PKS（Palm Kenal Shell）は、アブラヤシの実の中にある核（たね）を包む殻で、パーム核油を採るときに得られる副産物です。油分を多く含むので、元々生産地でも燃料として一部利用されていました。

バイオマス発電の燃料として日本が利用し始めたのは2010年代の後半です。輸入量を見ると、2017年は177万トンだったのに、2019年には344万トン、2020年に445万トン、2021年には500万トンを越え、急激な伸びを見せています。インドネシアのPKS総生産量は1100万トンともいわれていますから、輸入量のイ

ンパクトの大きさがわかります。

パーム油発電はさまざまな問題があり調達も困難と明らかになってきたところから、大量に輸入できる燃料として取引が増えていると考えられます。

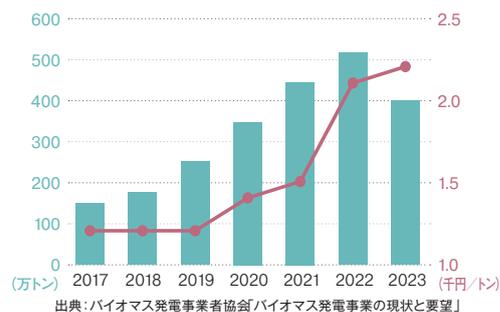
PKSは、安定的な供給が見込まれるほか、価格も比較的安い、副産物なので食料と競合しない、吸水性が低いので屋外でも保管できるなどが利点です。

ただ、生産地で燃料として使われるPKSをわざわざ遠くの国まで運ぶのはフットプリントの観点で問題があります。

最近では、PKSに対する供給不安からか、価格がPKSより高いにも関わらず、ペレットの輸入が非常に増えています。

また、PKSに関しても第三者認証が必要になります。認証はRSPO、GLL、ISOのほか2023年からはMSPO<sup>※2</sup>認証も認められます。【グラフB】

グラフB PKS輸入量と価格変遷



2024年3月で経過措置期間が終了するので、そのときまでに第三者認証をとらなくてははいけません。

\*\*\*

日本のバイオマス発電は輸入した燃料に依存しているのが現状です、輸入するとどうしてもライフサイクルGHGが大きくなるし、価格も国際市場に左右されるなどリスクが高いです。長い目でみた地道な計画が必要です。

※1 岩手県石巻市にG-bioのバイオマス発電は計画中ですが、パーム油発電でFIT認定をとったもののボンガミア油（亜熱帯のマメ科の植物）に変更する、パーム油と併用するなど計画変更が続き2025年の稼働は危ぶまれています。  
 ※2 マレーシアの持続可能なパーム油認証制度



# Part 2

# 統計編

## CONTENTS - 2

### 統計1

#### 世界の油脂事情… P18 ～ P19

統計1-1 主要17油脂別生産量

統計1-2 5大植物油生産量変遷

統計1-3 5大植物油生産国ランキング

統計1-4 油糧作物別単収変遷

### 統計2

#### パーム油… P20 ～ P21

統計2-1 パーム油の国別生産量

統計2-2 パーム油の国別消費量

統計2-3 パーム油の国別輸出量

統計2-4 パーム油の国別輸入量

### 統計3

#### パーム核油… P22 ～ P23

統計3-1 パーム核油の国別生産量

統計3-2 パーム核油の国別消費量

統計3-3 パーム核油の国別輸出量

統計3-4 パーム核油の国別輸入量

### 統計4

#### アブラヤシ栽培面積の変遷… P24 ～ P25

統計4-1 国別アブラヤシ収穫可能面積・単収

統計4-2 インドネシアとマレーシアのアブラヤシ栽培面積変遷

統計4-3 マレーシアの州別アブラヤシ栽培面積変遷

統計4-4 大豆とアブラヤシの栽培可能面積変遷

### 統計5

#### 日本… P26

統計5-1 日本の油脂別消費量

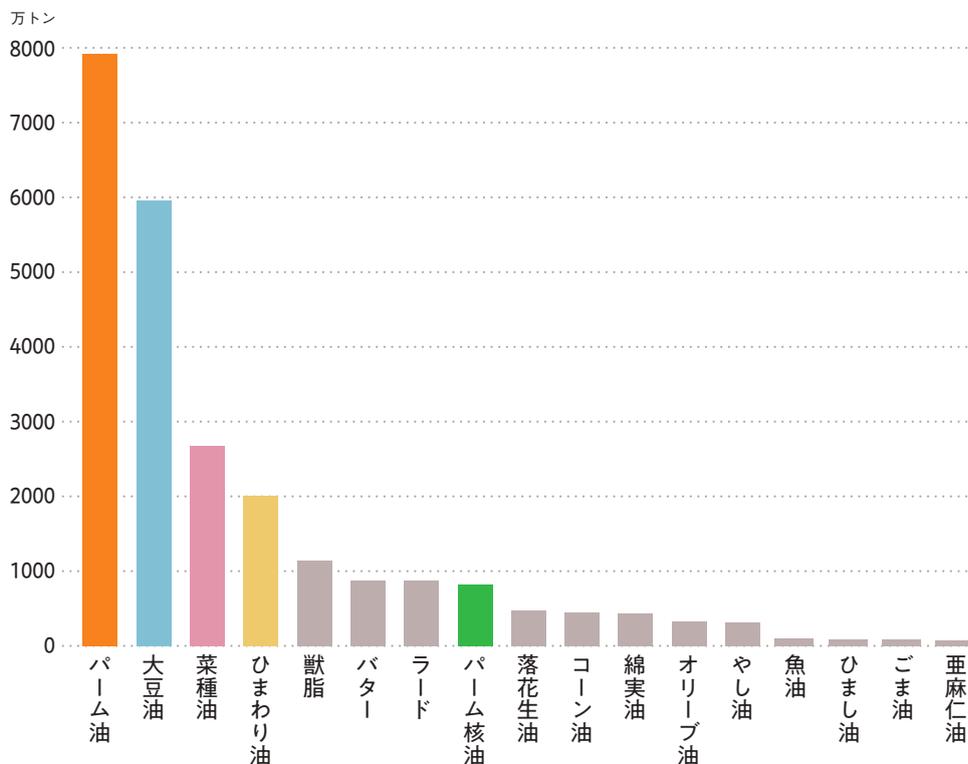
統計5-2 植物油・大豆の輸入価格

#### 緑の回廊プロジェクト… P27

# 統計 1 世界の油脂事情

## 統計 1-1 主要17油脂別生産量(2022)

Source : Oil World Annual 2023



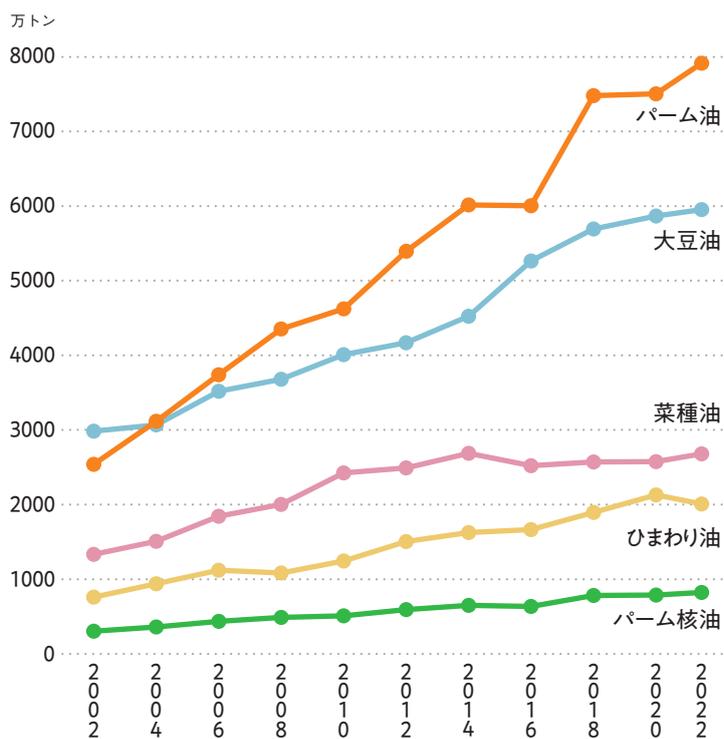
生産総量2億5000万トンでは前年より約400万トン増加したが、その大半はパーム油である。パーム油、大豆油、菜種油で全体の67%を占める。

単位：万トン

種類	生産量
パーム油	7915.7
大豆油	5954.3
菜種油	2681.6
ひまわり油	2009.5
獣脂	1140.2
バター	869.6
ラード	868.4
パーム核油	823.7
落花生油	467.8
コーン油	447.7
綿実油	437.0
オリーブ油	321.9
やし油	319.9
魚油	102.7
ひまし油	83.2
ごま油	81.7
亜麻仁油	79.7
合計	24604.7

## 統計 1-2 5大植物油生産量変遷

Source : Oil World Annual 2023



過去20年間で5大植物油の生産量は、それぞれ2～3倍に増加した。中でもパーム油とひまわり油は3倍以上になっている。

単位：万トン

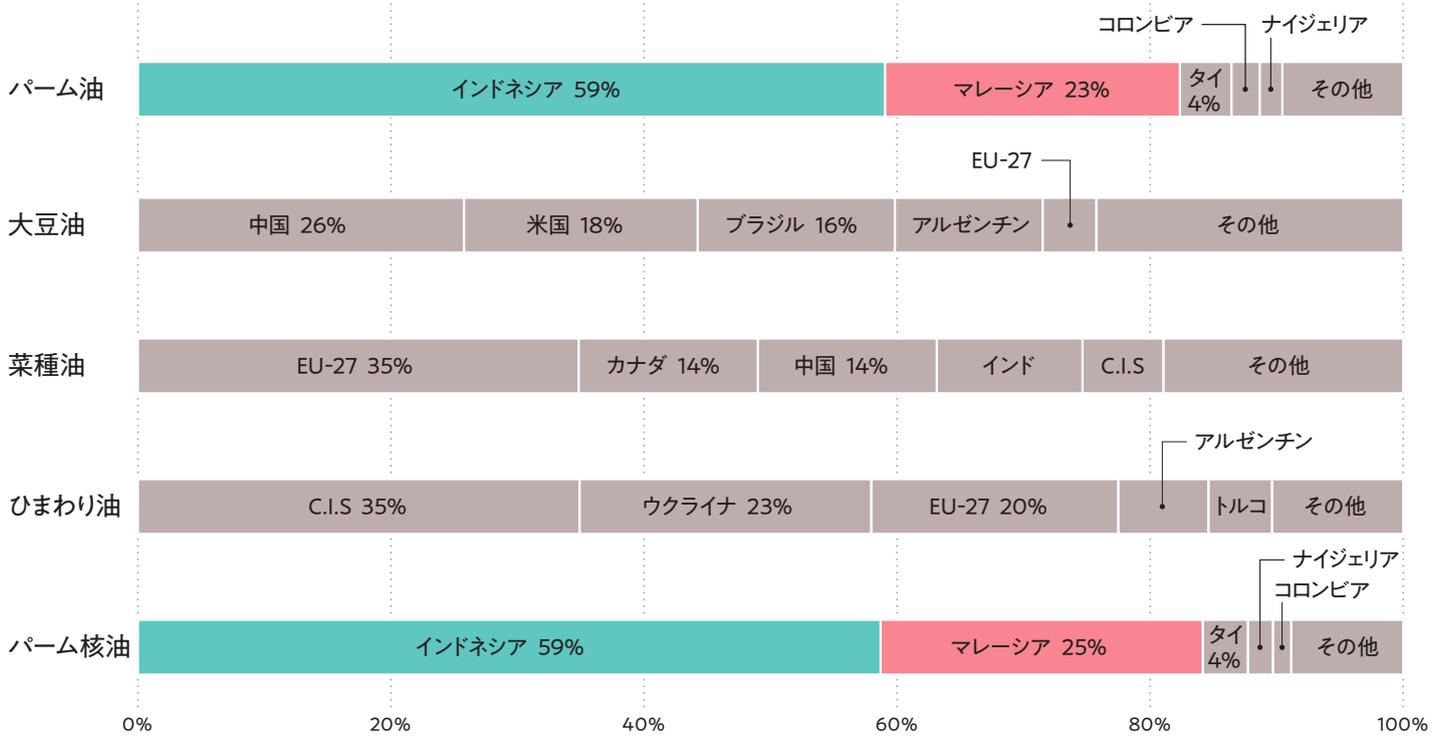
	パーム油	大豆油	ひまわり油	菜種油	パーム核油
2002	304.4	2985.0	761.0	1334.3	2540.7
2004	361.2	3069.1	940.1	1509.2	3117.8
2006	436.5	3519.6	1121.7	1844.6	3741.5
2008	489.4	3680.8	1084.5	2003.6	4355.0
2010	510.5	4010.4	1245.5	2425.9	4624.5
2012	594.0	4170.2	1506.2	2492.7	5396.4
2014	650.9	4525.0	1626.6	2688.6	6016.8
2016	636.2	5265.7	1666.2	2522.5	6006.2
2018	783.4	5694.7	1896.3	2572.6	7481.9
2020	788.8	5868.5	2130.9	2576.8	7505.9
2022	823.7	5954.3	2009.5	2681.6	7915.7

※小数点第2位で四捨五入しているため、合計がずれている場合があります。  
 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な業務が遅れています。統計は後日修正される可能性があります。  
 ※C.I.Sは独立国家共同体の略。

## 統計 1-3 5大植物油生産国ランキング

Source : Oil World Annual 2023

パーム油を始めとして5大植物油の生産地は集中している。大豆は中国、米国、菜種油はEUカナダ、中国、ひまわり油はC.I.Sとウクライナで大半を占める。

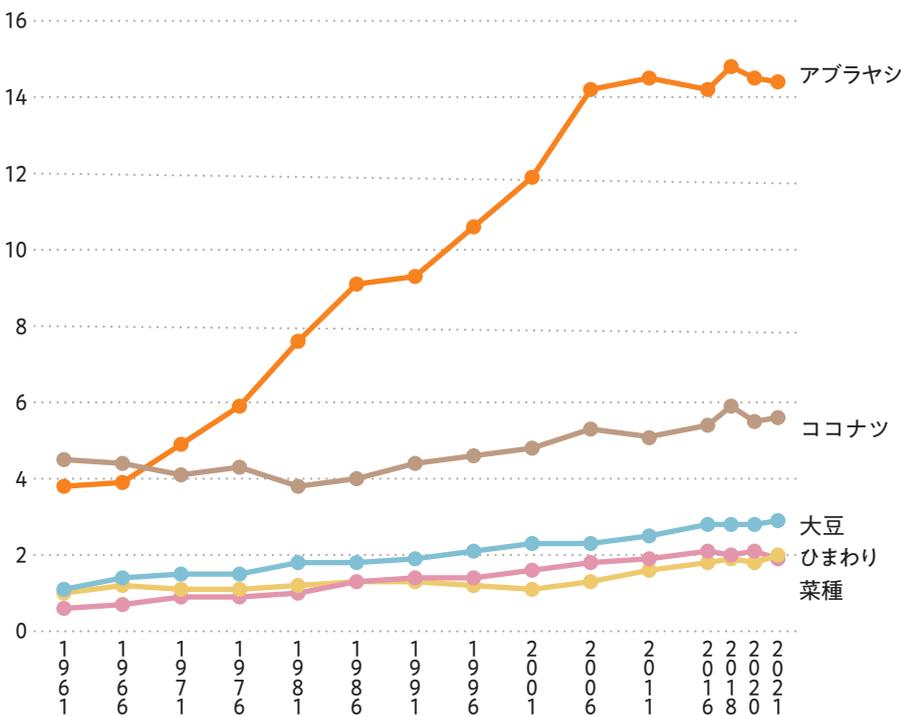


## 統計 1-4 油量作物別単収変遷

FAOSTAT 2023/12/6 閲覧

FAOのサイトでは、2022年のデータはアップされていない。油の含有率はアブラヤシで25%、大豆29%、菜種40%と言われている。

トン/ヘクタール



単位：トン/ヘクタール

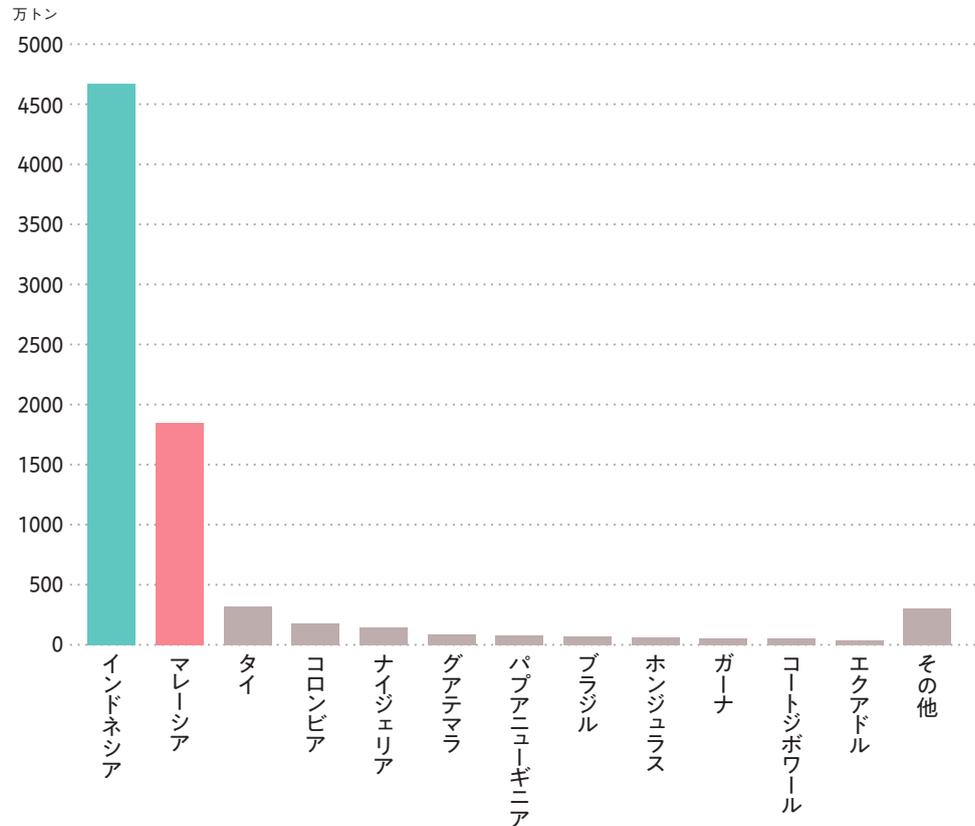
	ココナツ	アブラヤシ	菜種	大豆	ひまわり
1961	4.5	3.8	0.6	1.1	1.0
1966	4.4	3.9	0.7	1.4	1.2
1971	4.1	4.9	0.9	1.5	1.1
1976	4.3	5.9	0.9	1.5	1.1
1981	3.8	7.6	1.0	1.8	1.2
1986	4.0	9.1	1.3	1.8	1.3
1991	4.4	9.3	1.4	1.9	1.3
1996	4.6	10.6	1.4	2.1	1.2
2001	4.8	11.9	1.6	2.3	1.1
2006	5.3	14.2	1.8	2.3	1.3
2011	5.1	14.5	1.9	2.5	1.6
2016	5.4	14.2	2.1	2.8	1.8
2018	5.9	14.8	2.0	2.8	1.9
2020	5.5	14.5	2.1	2.8	1.8
2021	5.6	14.4	1.9	2.9	2.0

# 統計 2 パーム油

## 統計 2-1 パーム油の国別生産量 (2022)

Source : Oil World Annual 2023

総生産量は約300万トン増加している。インドネシアで全体の59%、マレーシアで23%、両国で82%を生産している。



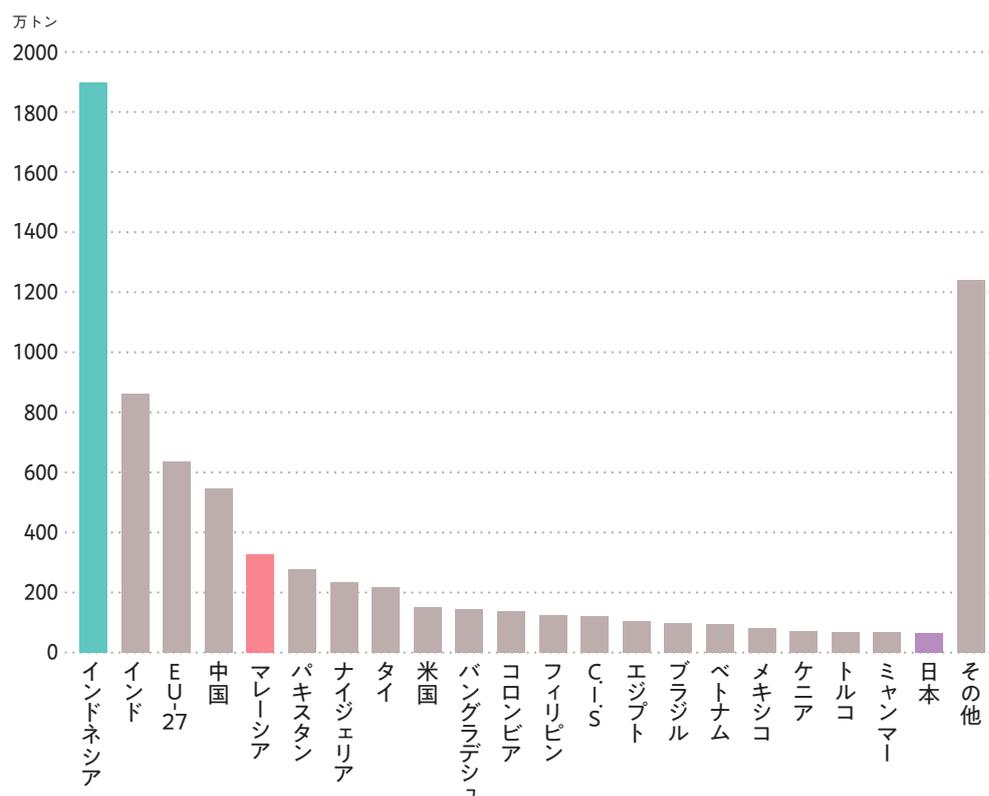
単位: 万トン

国名	生産量
インドネシア	4673.0
マレーシア	1845.3
タイ	322.0
コロンビア	176.8
ナイジェリア	142.0
グアテマラ	88.0
パプアニューギニア	78.5
ブラジル	70.0
ホンジュラス	65.0
ガーナ	57.5
コートジボワール	57.0
エクアドル	40.5
その他	300.1
合計	7915.7

## 統計 2-2 パーム油の国別消費量 (2022)

Source : Oil World Annual 2023

インドネシア、インド、EU、中国、マレーシアと上位5位は不動。インドネシアでは40%を自国内で消費している。日本は64万トン、すべて輸入である。



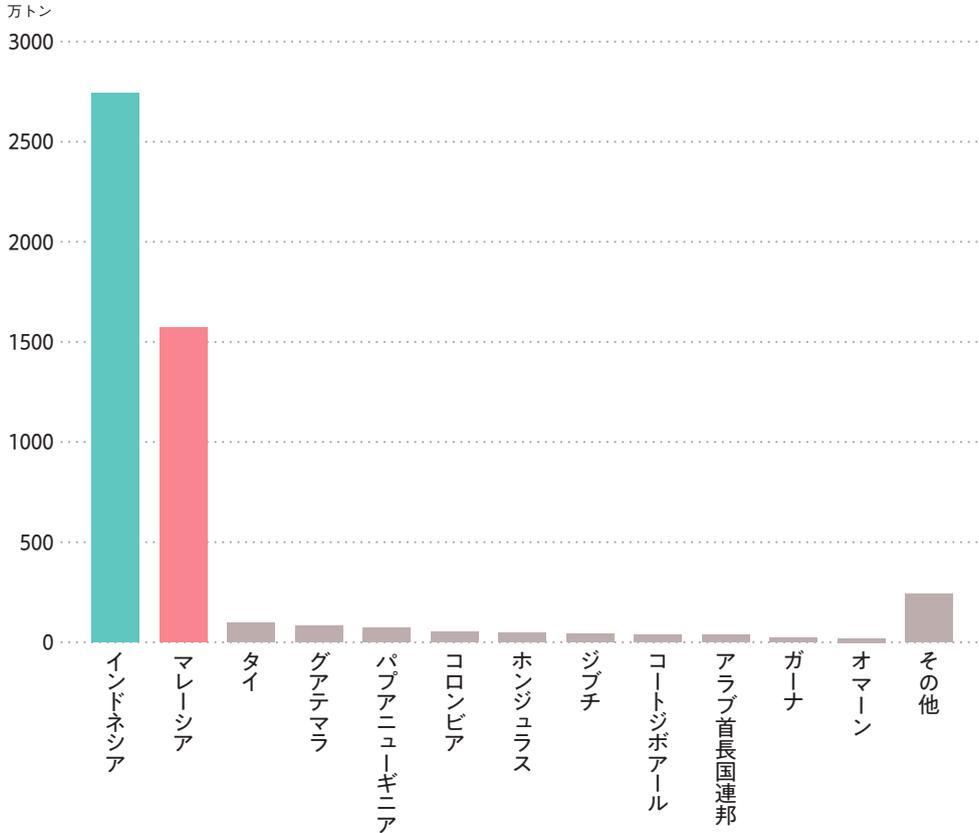
単位: 万トン

国名	消費量
インドネシア	1898.6
インド	860.6
EU-27	636.5
中国	544.8
マレーシア	328.2
パキスタン	276.1
ナイジェリア	234.3
タイ	216.8
米国	152.6
バングラデシュ	145.1
コロンビア	139.0
フィリピン	124.4
C.I.S	120.0
エジプト	104.3
ブラジル	97.0
ベトナム	94.5
メキシコ	80.3
ケニア	72.3
トルコ	69.3
ミャンマー	69.0
日本	63.6
その他	1240.7
合計	7568.0

※小数点第2位で四捨五入しているため、合計がずれている場合があります。  
 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な業務が遅れています。統計は後日修正される可能性があります。  
 ※C.I.Sは独立国家共同体の略。

### 統計 2-3 パーム油の国別輸出货量 (2022)

Source : Oil World Annual 2023



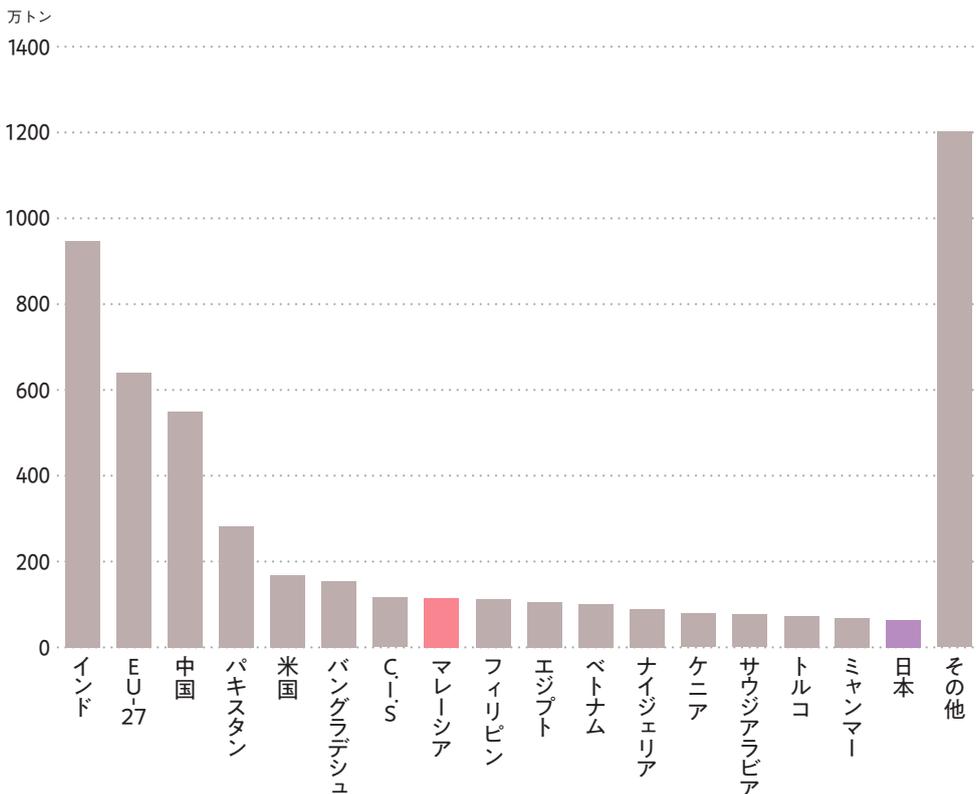
インドネシアは輸出货量が群を抜いて多く、マレーシアは輸出する割合が高い。グアテマラとパプアニューギニアは80%以上を輸出している。

単位: 万トン

国名	輸出货量
インドネシア	2745.1
マレーシア	1573.0
タイ	97.2
グアテマラ	82.0
パプアニューギニア	71.0
コロンビア	53.0
ホンジュラス	48.4
ジブチ	44.8
コートジボワール	37.7
アラブ首長国連邦	36.2
ガーナ	22.0
オマーン	20.0
その他	242.8
合計	5056.4

### 統計 2-4 パーム油の国別輸入量 (2022)

Source : Oil World Annual 2023



インド、EU、中国、パキスタン、米国とランキングに変化はない。EUの輸入量は前年より100万トン減っている。日本は64万トンである。

単位: 万トン

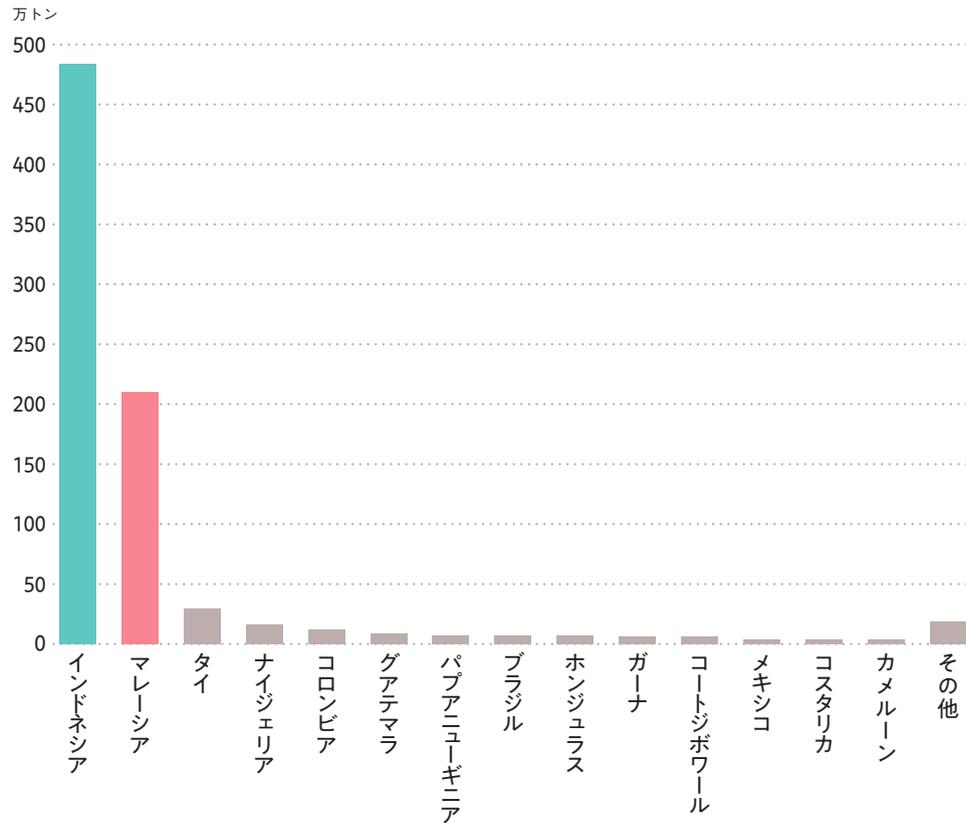
国名	輸入量
インド	946.7
EU-27	640.6
中国	549.1
パキスタン	281.6
米国	169.2
バングラデシュ	154.3
C.I.S	116.2
マレーシア	114.1
フィリピン	113.1
エジプト	105.6
ベトナム	100.9
ナイジェリア	89.6
ケニア	78.9
サウジアラビア	76.7
トルコ	73.6
ミャンマー	67.9
日本	63.6
その他	1201.6
合計	4943.3

# 統計 3 パーム核油

## 統計 3-1 パーム核油の国別生産量(2022)

Source : Oil World Annual 2023

総生産量は約30万トン増加している。インドネシア、マレーシアとも前年より微増しているが、ほかはあまり変化がなかった。



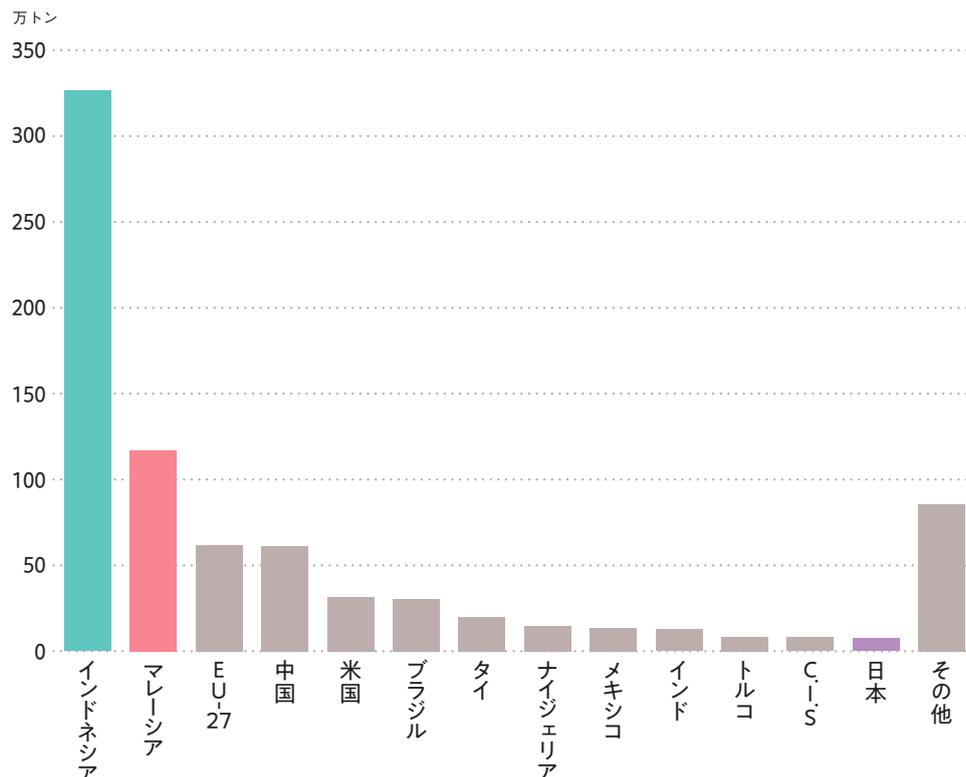
単位: 万トン

国名	生産量
インドネシア	483.5
マレーシア	209.7
タイ	29.4
ナイジェリア	16.3
コロンビア	11.9
グアテマラ	9.1
パプアニューギニア	7.4
ブラジル	7.4
ホンジュラス	6.9
ガーナ	6.2
コートジボワール	5.9
メキシコ	4.1
コスタリカ	3.9
カメルーン	3.7
その他	18.4
合計	823.7

## 統計 3-2 パーム核油の国別消費量(2022)

Source : Oil World Annual 2023

総消費量は約20万トン減少した。インド、パキスタンなど人口の多い国はパーム油の消費が多いが、核油の消費は多くない。



単位: 万トン

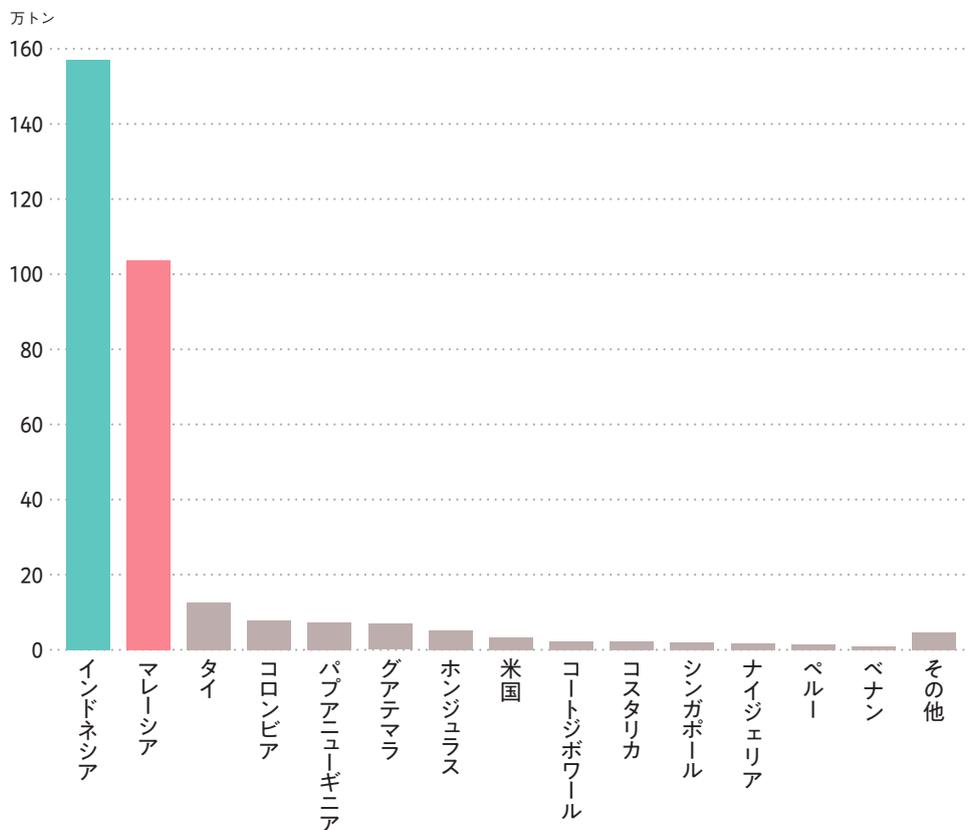
国名	消費量
インドネシア	326.4
マレーシア	116.9
EU-27	61.8
中国	61.2
米国	31.6
ブラジル	30.3
タイ	20.1
ナイジェリア	14.6
メキシコ	13.6
インド	12.7
トルコ	8.2
C.I.S	8.0
日本	7.5
その他	85.6
合計	787.9

※小数点第2位で四捨五入しているため、合計がずれている場合があります。  
 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な業務が遅れています。統計は後日修正される可能性があります。  
 ※C.I.Sは独立国家共同体の略。

### 統計 3-3 パーム核油の国別輸出量(2022)

Source : Oil World Annual 2023

総輸出量は319万トン、前年とほぼ同じ。インドネシアが全体の49%、マレーシアは34%、パーム油に比してマレーシアの割合が大きい。



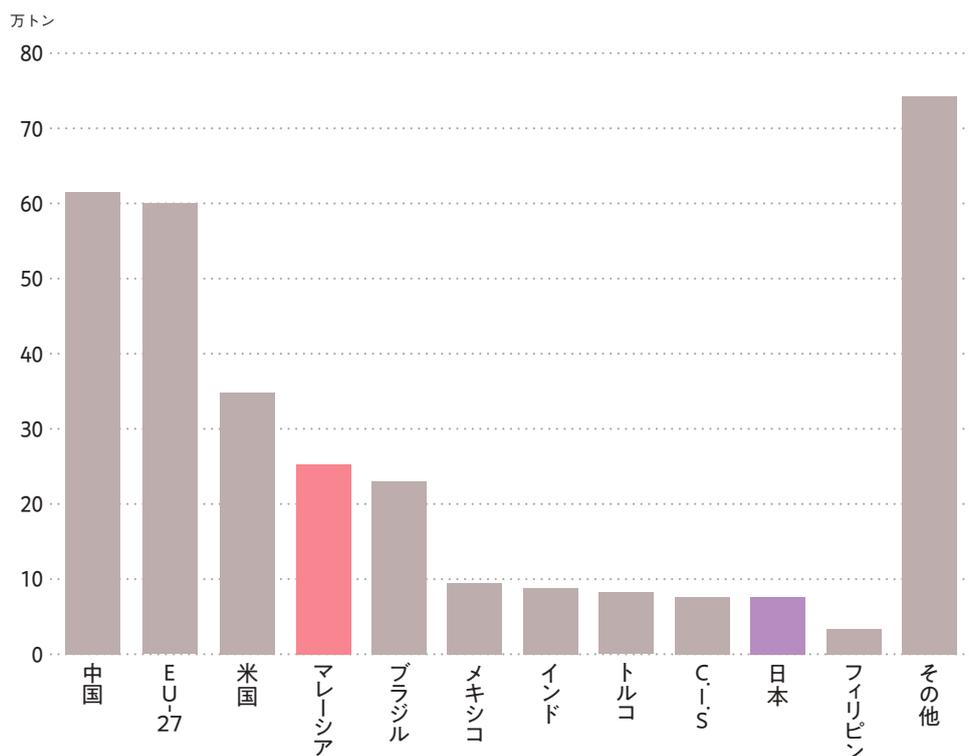
単位: 万トン

国名	輸出量
インドネシア	157.1
マレーシア	103.8
タイ	12.6
コロンビア	7.8
パプアニューギニア	7.3
グアテマラ	6.9
ホンジュラス	5.2
米国	3.4
コートジボワール	2.3
コスタリカ	2.3
シンガポール	2.1
ナイジェリア	1.7
ペルー	1.5
ベナン	0.8
その他	4.6
合計	318.7

### 統計 3-4 パーム核油の国別輸入量(2022)

Source : Oil World Annual 2023

総輸入量は約43万トン減少。EUは約11万トン減少し、中国に1位を譲った。マレーシアは輸入国でもあり輸出国でもある。日本の輸入量は7.6万トン。

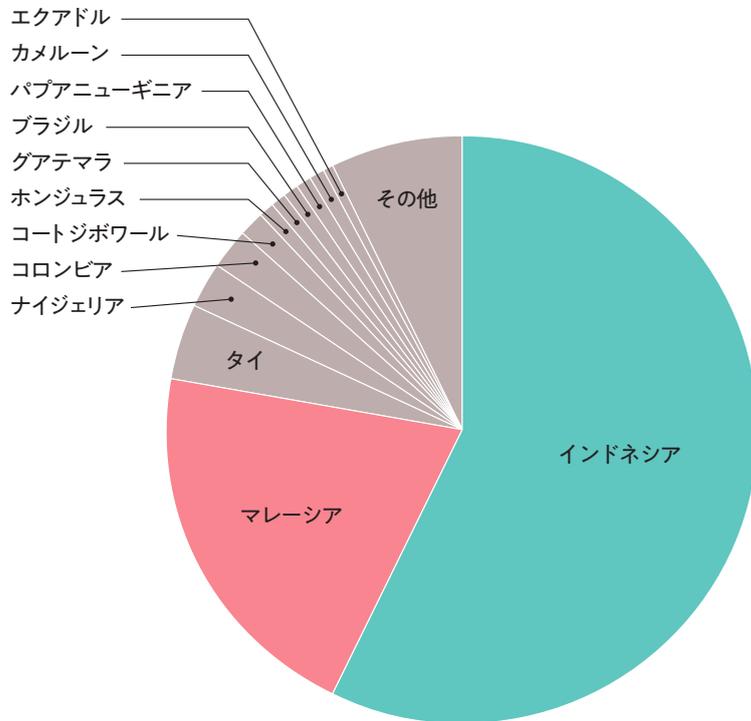


単位: 万トン

国名	輸入量
中国	61.5
EU-27	60.0
米国	34.8
マレーシア	25.3
ブラジル	23.0
メキシコ	9.5
インド	8.8
トルコ	8.2
C.I.S	7.6
日本	7.6
フィリピン	3.4
その他	74.3
合計	296.2

# 統計4 アブラヤシ栽培面積の変遷

統計 4-1 国別アブラヤシ収穫可能面積・単収(2022)  
Source : Oil World Annual 2023

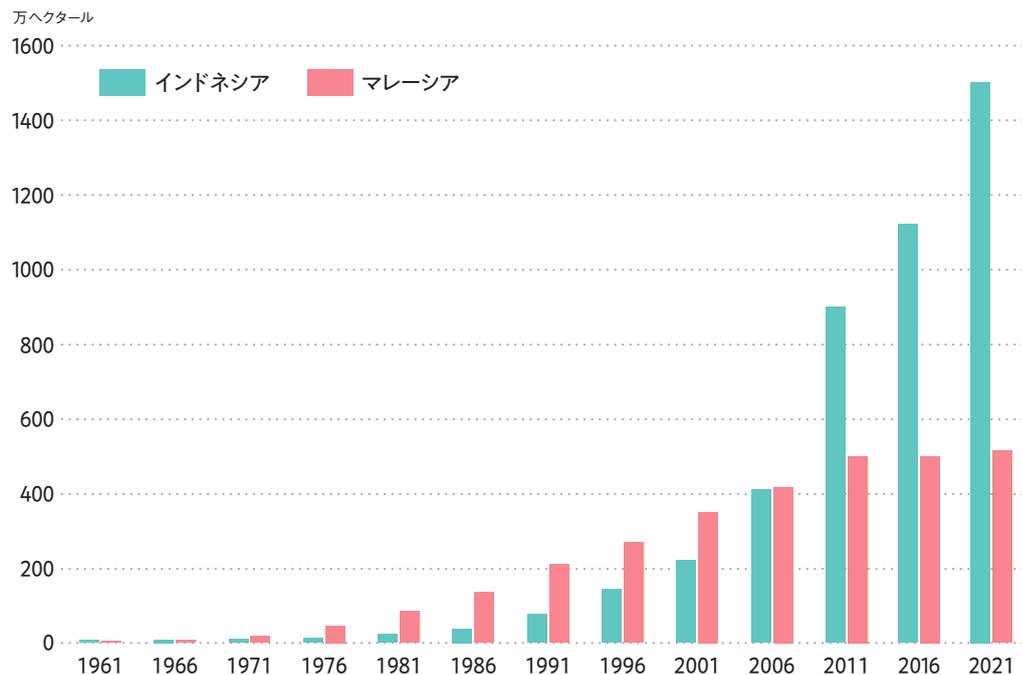


収穫可能総面積はインドネシアとマレーシアで79%を占めるが、総面積は微増。単収はグアテマラが非常に高いが、アフリカ諸国は総じて低い。

単位：万ヘクタール トン/ヘクタール

国名	収穫可能面積	単収
インドネシア	1417.0	3.38
マレーシア	511.0	3.63
タイ	103.0	3.23
ナイジェリア	62.0	2.35
コロンビア	53.5	3.48
コートジボワール	33.0	1.76
ホンジュラス	22.5	3.13
グアテマラ	21.5	4.37
ブラジル	21.5	3.35
パプアニューギニア	21.0	3.86
カメルーン	18.3	1.91
エクアドル	14.8	2.64
その他	174.6	1.94
合計/平均	2473.7	3.27

統計 4-2 インドネシアとマレーシアのアブラヤシ栽培面積変遷  
Source : FAO STAT 2023年12月7日閲覧



2000年代半ばはインドネシアの栽培面積はマレーシアを越えその差はどんどん開いている。インドネシアは20年間で栽培面積は約7倍になった。

単位：万ヘクタール

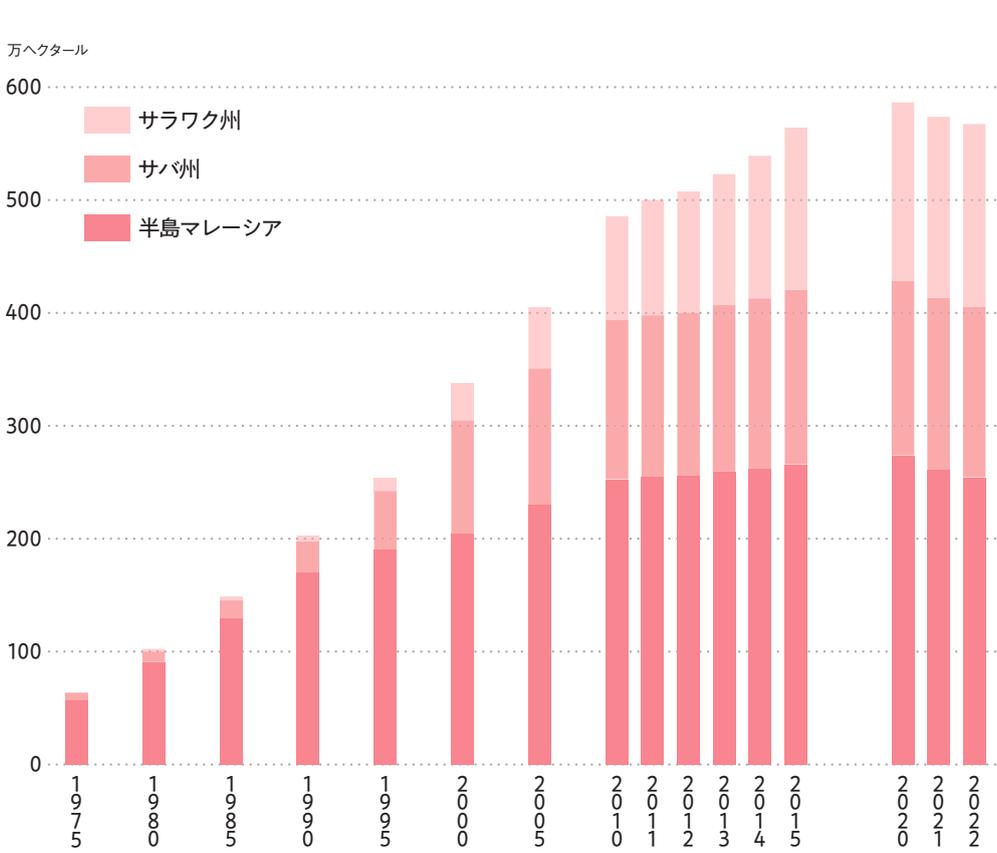
	インドネシア	マレーシア
1961	7.0	4.3
1966	8.5	6.7
1971	9.5	18.4
1976	13.0	45.4
1981	23.0	84.8
1986	37.4	136.1
1991	77.2	209.4
1996	142.8	269.2
2001	220.0	349.9
2006	411.0	416.5
2011	899.3	500.0
2016	1120.1	500.1
2021	1500.1	514.4

※小数点第2位で四捨五入しているため、合計がずれている場合があります。  
 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な業務が遅れています。統計は後日修正される可能性があります。

### 統計 4-3 マレーシアの州別アブラヤシ栽培面積変遷

Source: MPOB

マレーシアでは1980年代半島の開発が急速に進み、1990年代後半からはサバ、2010年代からはサラワクでの開発が盛んになった。



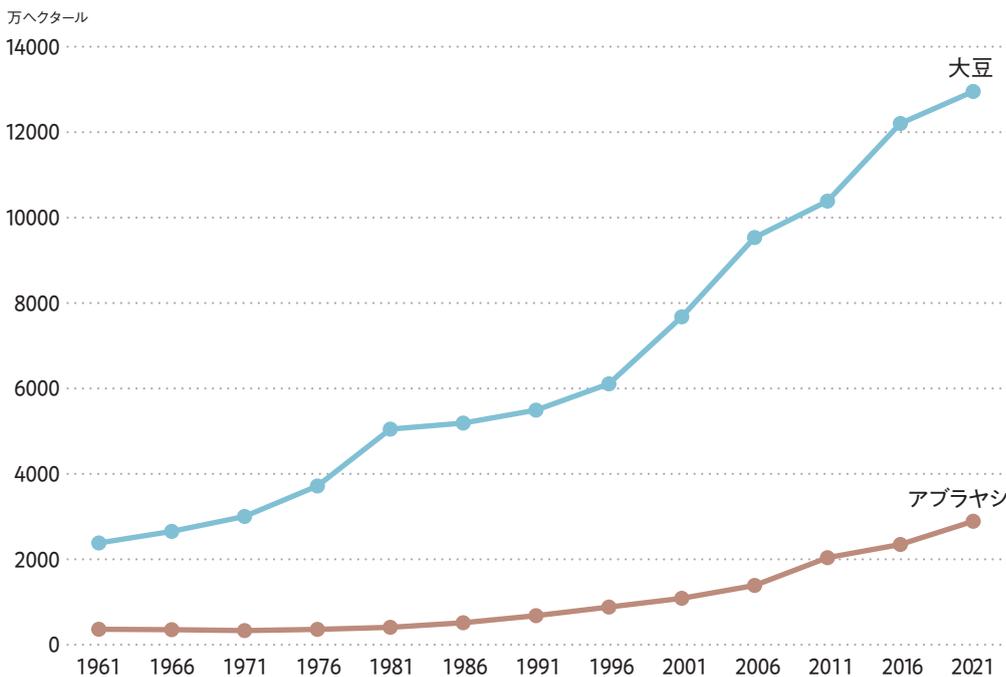
単位: 万ヘクタール

	半島マレーシア	サバ州	サラワク州
1975	56.9	5.9	1.4
1980	90.7	9.4	2.3
1985	129.2	16.2	2.9
1990	169.8	27.6	5.5
1995	190.3	51.8	11.9
2000	204.6	100.0	33.0
2005	229.9	120.9	54.3
2010	252.7	141.0	92.0
2011	254.7	143.2	102.2
2012	255.8	144.3	107.6
2013	259.4	147.5	116.1
2014	261.7	151.2	126.3
2015	265.9	154.4	143.9
2020	273.8	154.3	158.5
2021	260.8	152.4	160.6
2022	254.4	150.8	162.2

### 統計 4-4 大豆とアブラヤシの栽培可能面積変遷

Source: FAOSTAT 2023/12/9閲覧

大豆栽培面積はアブラヤシの4.5倍だが、大豆油生産量はパーム油の0.7倍である。60年間で栽培面積は大豆は5倍、アブラヤシは8倍になった。



単位: 万ヘクタール

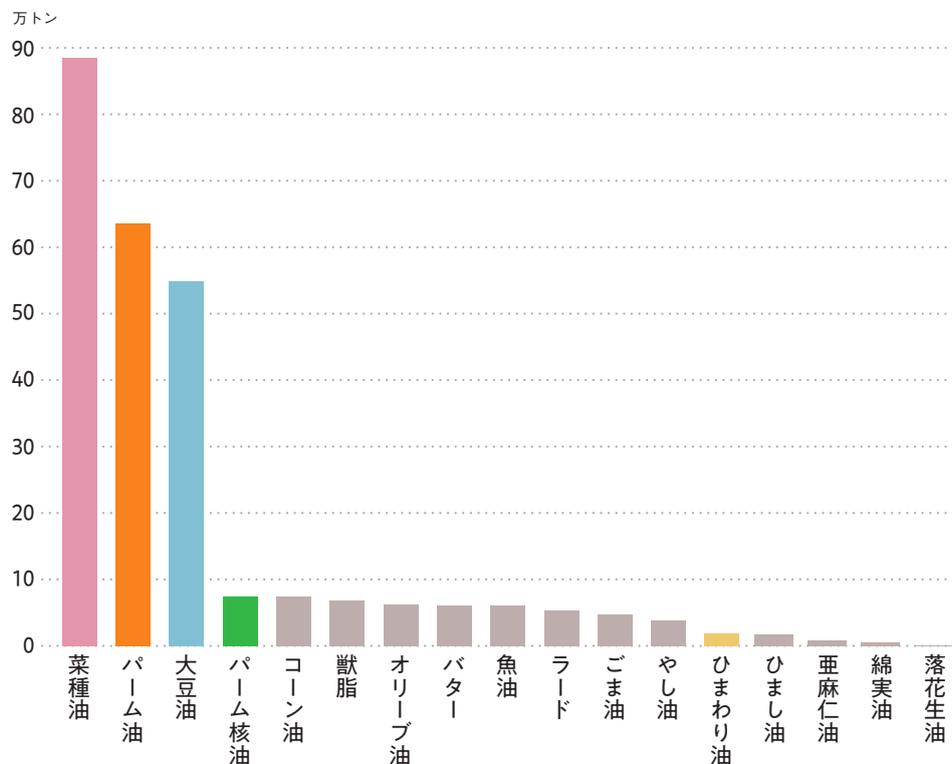
	大豆	アブラヤシ
1961	2381.9	362.0
1966	2653.4	352.4
1971	3003.4	331.2
1976	3716.8	359.3
1981	5047.6	407.8
1986	5189.6	514.7
1991	5492.5	680.4
1996	6107.9	882.0
2001	7676.3	1086.6
2006	9533.5	1388
2011	10386	2038.4
2016	12203.6	2347.6
2021	12952.4	2891.0

# 統計 5 日本

※小数点第2位で四捨五入しているため、合計がずれている場合があります。  
 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な業務が遅れています。統計は後日修正される可能性があります。

## 統計 5-1 日本の油脂別消費量(2022)

Source : Oil World Annual 2022



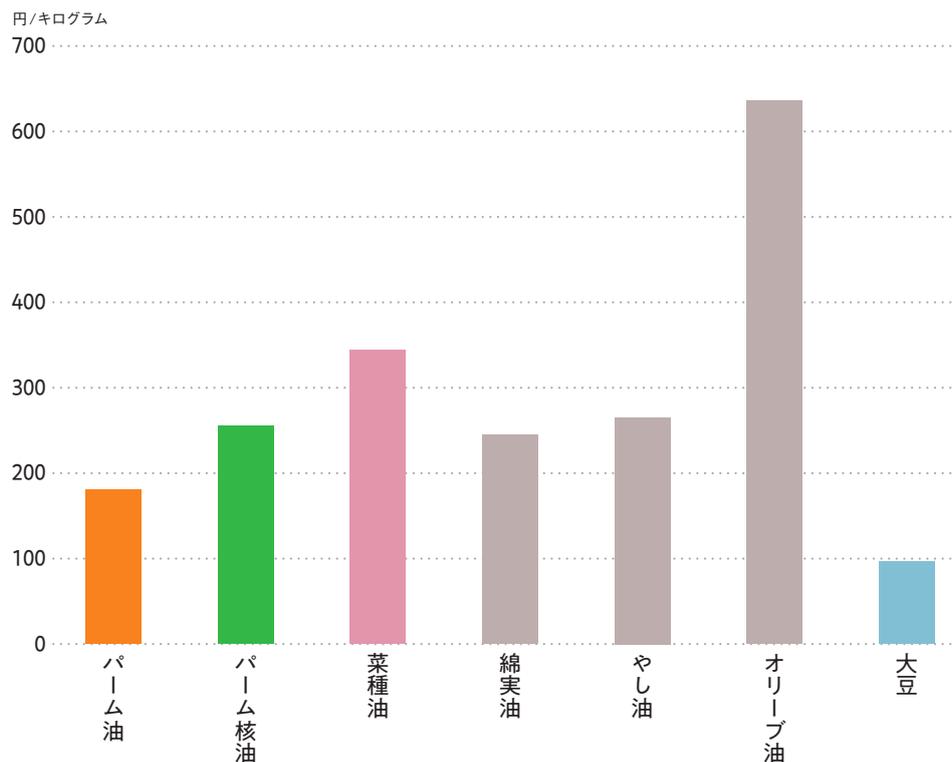
菜種油が37%、パーム油が26%、大豆油23%で全体の86%を占める。総消費量は前年とほぼおなじだが、大豆油が増加し菜種油が減少している。

単位: 万トン

種類	消費量
菜種油	88.5
パーム油	63.6
大豆油	54.9
パーム核油	7.5
コーン油	7.4
獣脂	6.9
オリーブ油	6.2
バター	6.1
魚油	6.1
ラード	5.4
ごま油	4.8
やし油	3.9
ひまわり油	1.9
ひまし油	1.7
亜麻仁油	0.9
綿実油	0.6
落花生油	0.1
合計	266.4

## 統計 5-2 植物油・大豆の輸入価格(2022)

Source : 農林水産省農作物輸出入統計



植物油はいずれも価格高騰している。菜種油が約2倍、パーム油が1.5倍、大豆油が1.4倍と、日本で消費量が多い植物油が高騰している。

単位: 円/キログラム

種類	輸入価格
パーム油	180.4
パーム核油	255.4
菜種油	344.3
綿実油	245.1
やし油	265.4
オリーブ油	636.1
大豆	96.8

# 緑の回廊プロジェクト

ボルネオ保全トラスト・ジャパンは、世界有数と称されるボルネオの豊かな生態系を未来に残すため、キナバタンガン川下流域に細長く熱帯雨林が広がる「緑の回廊」をつくって野生動物の生息域を確保し、多様な生物が生きていることのできる環境を保全するための活動を行なっています。

ボルネオ島北部に位置するマレーシアのサバ州では、悠久の熱帯雨林が、森林伐採やアブラヤシプランテーションの急激な開発によってわずか50年で150万ha以上も消失しました。野生動物は生息地を追われ、数も減少しています。

生物多様性の宝庫と称されるボルネオ島のなかでも有数の地域のひとつ、サバ州北東部を流れるキナバタンガン川流域でも大規模な開発が進みました。下流域の野生動物保護区は、プランテーションや私有の森に囲まれ、つながっていません。開発が進めば、野生動物の生息

地がさらに狭まって自由な移動は遮られ、繁殖は阻まれ、遺伝子の多様性も低下します。

キナバタンガン川下流域の生態系を繋ぐためには、野生動物が自由に移動できるように保護区と保護区の間に残る森をつなげた大きな「緑の回廊」が必要です。その実現のため、2006年にサバ州政府機関や企業によって「ボルネオ保全トラスト (BCT)」が設立されました。

2008年にはプロジェクトの実行を目的に「ボルネオ保全トラスト・ジャパン (BCTJ)」が活動をスタート。みなさま

のご支援によりこれまでに1.4億円を超える寄附金が集まり、およそ104ヘクタールの土地を緑の回廊として獲得しました。また獲得した土地を保護区とするために、政府に寄贈する手続き中です。なお2023年は、緑の回廊に6区画を確保し、登記など行っている最中です。

生物多様性の保全は21世紀の人類共通の大きな課題です。私たちはこれからもボルネオの地で生物多様性保全活動、自然環境保護活動に全力で取り組みます。今後とも末永いご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 完成予想図と現段階(2024.1)までの取得地



発行: 認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン (BCTJ)  
 制作: パーム油白書編集委員会 (青木崇史、中西宣夫、森井真理子)  
 編集協力: 細部文香 写真: 中西宣夫 デザイン: 根本睦子  
 発行: 2024年2月  
 ■本書掲載記事の無断転用を禁じます。